

会 務 報 告

(平成 20 年 8 月～平成 21 年 7 月)

◇**診断病理サマーフェスト**：サマーフェスト委員会のもとで、平成 20 年 8 月 23 日(土) 24 日(日)、京都テルサにて「第 2 回診断病理サマーフェスト」が開催された。229 名が参加し、うち 50% が病理、30% が呼吸器系、20% が放射線系からの参加であった。

◇**技術講習会—分子病理学の基礎技術 8—**：北川昌伸教授(東京医科歯科大学)のもとで、平成 20 年 11 月 19 日(水)、松山市総合コミュニティセンターにて実施され、35 名が受講した。講師は、モデレーターとして北川教授があつたほか、講義は一迫 玲(東北大学)、内原俊記(東京都神経科学総合研究所)、池田 聡(土浦協同病院)、大場雄介(北海道大学)、水島 昇(東京医科歯科大学)の各氏が担当した。

◇**第 54 回秋期特別総会(平成 20 年度)**：愛媛大学を世話機関として植田会長のもとで、平成 20 年 11 月 20 日(木)～21 日(金)の 2 日間、松山市総合コミュニティセンターにて開催された。特別講演 2 題、学術研究賞演説(A 演説)8 題、B 演説 2 題、シンポジウム 1 件 5 題、ワークショップ 1 件 6 題、病理診断シリーズ 2 題、パネルディスカッション 1 件 6 題の発表と討論が行われた。会期の前後には病理技術講習会、IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

特別講演 (2 題)

遠藤弥重太(愛媛大学)：無細胞蛋白合成法の確立と病態解析への応用

須田 年生(慶應義塾大学)：幹細胞ニッチ制御

学術研究賞演説 (A 演説) (8 題)

- (1) 鈴木 貴(東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻病理検査学分野)：乳癌におけるアロマターゼの発現意義
- (2) 工藤 保誠(広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学)：口腔癌の増殖および浸潤に関する分子病理学的研究
- (3) 齋藤 剛(東京医科大学病理診断学講座)：滑膜肉腫における上皮間葉および間葉上皮移行—SYT-SSX 融合遺伝子と細胞間接着蛋白の関与—
- (4) 福嶋 敬宜(東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野)：痔腫瘍における間質浸潤・腫瘍間質の特徴；臨床病理学および網羅的遺伝子発現解析からのアプローチ
- (5) 原田 憲一(金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学)：胆道系自然免疫と病態形成への関与；胆道閉鎖症を中心に
- (6) 木藤 克己(愛媛大学大学院医学系研究科病態解析学講座分子病理学分野)：ユビキチン様タンパク質の機

能解析

- (7) 岩淵 和也(北海道大学遺伝子制御研究所病態研究部門免疫生物分野)：ナチュラルキラーT(NKT)細胞機能の分化と生体内における新しい役割
- (8) 杉野 隆(福島県立医科大学医学部病理学第二講座)：浸潤非依存性転移モデルの開発と分子メカニズムの解明

B 演説 (2 題)

- (1) 田中 水緒(神奈川県立こども医療センター病理科)：融合遺伝子 BRD4-NUT 形成を伴う小児肺癌の 2 例
- (2) 松山 高明(国立循環器センター臨床検査部病理)：不整脈治療後の心臓の病理学的解析—高周波カテーテル心筋焼灼術後症例での検討—

シンポジウム (5 題) プロテオームと病理学の接点

- (1) 山本 格(新潟大学)：腎臓プロテオミクス
- (2) 平野 久(横浜市立大学)：ゲノムからプロテオームへ
- (3) 川又 純(京都大学)：神経変性疾患プロテオーム
- (4) 山田 哲司(国立がんセンター)：癌の病態解明と臨床への応用を目指したプロテオーム
- (5) 阿部 康人(愛媛大学)：自己抗体プロテオームと病理学への応用

ワークショップ (6 題) 血管炎研究の最前線

- (1) 小林 茂人(順天堂大学・越谷病院)：血管炎症候群；内科—病理の医療連携 内科(膠原病内科)の立場から
- (2) 城 健輔(千葉東病院)：MPO-ANCA 関連腎炎における腎生検時の臨床・病理パラメーターの相関に関する解析とそれに基づく臨床病理型の提案
- (3) 石津 明洋(北海道大学)：顕微鏡的多発血管炎患者末梢血のトランスクリプトーム解析
- (4) 土屋 尚久(筑波大学)：日本人における顕微鏡的多発血管炎の疾患感受性遺伝子解析
- (5) 鬼丸 満保・居石 克夫(九州大学)：血管再生の分子機構；内因性血管新生関連因子の時・空間的協調性
- (6) 長谷川 均(愛媛大学)：血管炎・腎炎とケモカイン；治療への展開

病理診断シリーズ (2 題)

シリーズ 35 清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理)：皮膚付属器腫瘍の病理診断

シリーズ 36 阿部 正文(福島県立医科大学第一病理)：小型～中型の腫瘍細胞からなる B 細胞リンパ腫の病理診断とその鑑別—マントル細胞リンパ腫を中心に

パネルディスカッション (6 題) 今後の日本における大学の病理学講座 (分野) の在り方

- (1) 井内 康輝 (広島大学): はじめに
- (2) 木田 正俊 (University of Vermont College of Medicine): 米国の現状
- (3) 植田 規史 (愛媛大学): ドイツの現状; アンケート結果から
- (4) 坂本 穆彦 (杏林大学): “講座” と “病理部” の距離
- (5) 横崎 宏 (神戸大学): 神戸大学の選択
- (6) 佐野 壽昭 (徳島大学): 日本の現状—今後のあるべき姿

○今後予定されている総会は、以下のとおりである。

- 1) 第 98 回 (平成 21 年度) 総会
世話機関: 京都大学
会 長: 真鍋俊明教授
会 期: 平成 21 年 5 月 1 日 (金) ~ 3 日 (日)
会 場: 京都国際会館
- 2) 第 55 回 (平成 21 年度) 秋期特別総会
世話機関: 防衛医科大学校
会 長: 松原 修教授
会 期: 平成 21 年 11 月 19 日 (木) ~ 20 日 (金)
会 場: 九段会館
- 3) 第 99 回 (平成 22 年度) 総会
世話機関: 順天堂大学
会 長: 樋野興夫教授
会 期: 平成 22 年 4 月 27 日 (火) ~ 29 日 (木)
会 場: 新宿京王プラザホテル

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について: 平成 20 年 11 月 19 日 (第 54 回秋期特別総会の前日) に松山市総合コミュニティセンターにて理事会を、11 月 20 日には同所にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

協議事項としては、総会では、平成 21 年度事業計画並びに収支予算、第 56 回 (平成 22 年度) 秋期特別総会会長および第 100 回 (平成 23 年度) 総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では、第 99 回 (平成 22 年度) 総会宿題報告担当者、平成 21 年度秋期学術集会病理診断シリーズの講演者、平成 21 年度名誉会員有資格者、平成 20 年度上期新入会員、「病理専門医資格更新についての細則」の変更をそれぞれ協議して決定した。

◇理事会: 平成 20 年 11 月 19 日 (水) の理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、本山梯一、向井 清、根本則道、坂本穆彦、佐藤昇志、白石泰三、寺田信行、上田真喜子 (以上理事)、石原得博、太田秀一 (以上監事)、植田規史 (第 54 回秋期特別総会会長)、能勢真人 (第 54 回秋期特別総会副会長) 大藪いづみ、菊川敦子 (以上事務局) の各氏が出席し、長村理事長長の司会により議事を進行した。議事録に署名する出

席者代表に松原 修、本山梯一両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 新公益法人化に向けての文科省主催の説明会が 2 回あり、長村理事長と大藪事務局長が出席した。内容の詳細を常任理事会で更に検討中である。
- (2) 9 月 9 日に長村理事長と稲山社会保険委員長が佐藤敏信保険局医療課長と面談した。10 月 23 日に社会保険委員会等との勉強会を行い、医療課長が講演した後、稲山委員長が病理学会の課題を述べ、質疑応答した。
- (3) 9 月 19 日に長村理事長と田村浩一病理専門医制度運営委員が田原克志厚労省臨床研修推進室長と面談した。初期臨床研修における病理的位置づけ (選択科目に病理診断科を明示)、CPC の現状などについて、種々要望をおこない意見交換した。

以下の 2 点が厚生労働省から指摘された、①臨床研修に関わり、大学病院 4 万円、病院 9.5 万円×研修医総数の剖検経費 [臨床研修費等補助金>臨床研修事業 (教育指導経費)] が支給されている。②卒後海外にて臨床研修を行った場合でも、その内容を研修と認めるよう審議できるよう通達した。

- (4) 病理診断の流れ“教室プロローグ”について病理学教授、病理診断科科長へ文書を送付することを、今回の理事会にて協議することとした。この件で、11 月 14 日 黒田理事と稲山社会保険委員長が医政局総務課と面談した。
- (5) 日臨技からの病理標本精度管理についての提案があったので、精度管理委員長の羽場礼次先生と協議してもらうこととした。ISO について日本適合性認定協会から委員の依頼があるが検討中である。
- (6) 日本産婦人科医会からのベセスダシステムに関するアンケートには、担当委員 (坂本穆彦先生、森谷卓也先生) に現状を聞き、常任理事会として回答した。回答内容は、諾であるが、普及するには時間がかかるので両委員とも十分意見交換をして欲しいとの意見をつけた。
- (7) 日本アイソトープ協会との「前立腺癌小線源療法後 1 年以内死亡時の対応マニュアル」の抜粋、および日本アイソトープ協会ホームページの URL を会報 10 月号に掲載した。
- (8) テレパソロジー・バーチャルマイクロスコープ研究会から申し入れのあったアンケートの件について、実施については了承したが、実施の主体・実施事務・経費負担送り先等について根本医療業務委員長から問い合わせ中である。
- (9) 剖検輯報の科研費への申請を行なった。本事業に“公開性”が要求されている点を鑑み、公開できる範囲のデータを病理学会ホームページに掲載した。
- (10) 新公益法人化など今後の病理学会の対応を見据えて、現在の企画委員会に向井清理事を加えて機構検討委員会

(仮称)を発足させることとした。

- (11) 市民公開講座検討委員会では、市民公開講座は学術集会の中で設定し、学会長と連動してテーマを考え、委員会で検討することとしている。
 - (12) 病理診断講習会委員会委員は清水道生委員長および森谷卓也委員の他に、福岡敬宜、鷹橋浩幸、笹島ゆう子、小田義直の各学術評議員に決定した。任期は4年である。
 - (13) 「医療の安全確保に向けた医療事故による死亡の原因究明・再発防止等の在り方に関する試案（第三次試案）」に対する病理学会のパブリックコメントをホームページに掲載した。
 - (14) Pathology International のインパクトファクターが2007年は1.371であった。
 - (15) 来年度病理学会カンファレンスについて世話人の加藤光保教授（筑波大学）よりプログラム案の提示があった。
 - (16) 国際交流事業について国際交流委員会からの提案を検討した。新しい取り組み（例えばアジアとの交流など）を依頼し、そのために、現行の事業の見直しも含めて再提案を依頼した。
 - (17) 100周年記念事業については全会員に趣意書を送り、記念事業の提案も受け付けている。現在まで数件の提案が届いている。
 - (18) 第2回（2008年）サマーフェストの報告書が真鍋委員長より提示された。第3回（2009年）は8月29・30日に東京大学にて開催される。今後は東京・京都で交互に開催される予定である。第4回（2010年）のテーマはリンパ腫を予定している。
 - (19) 100周年記念事業については、来春の総会時に発起人会を開催してはどうかとの案が深山理事より出され、検討中である。
 - (20) 乳癌センチネルリンパ節の転移の有無に関する迅速遺伝子診断 OSNA 法に第3部として2000点保険収載が決定した。同時に凍結切片による形態診断も請求可能である。
2. 各種委員会委員長報告
- (1) 企画委員会（深山正久委員長）
学術評議員制度に関するアンケート調査の結果について。
 - ① 503名からの回答があった（12.9%）
 - ② 現在の学術評議員制度についてどう考えるかという質問には「よい」「悪い」のどちらか25%以下であった。
 - ③ 一般会員との権利・義務の違いと会費の差とのバランスについてとの質問には、学術評議員の方に不満が多い。
 - ④ 学術評議員の人数については、多いとの回答が半数であった。
 - ⑤ 学術評議員制度を維持していくべきかどうかとの質問には廃止・継続が約半数ずつであった。
 - (2) 広報委員会（坂本穆彦委員長）
病理学会ホームページの求人情報欄を積極的に活用してもらうよう、各支部長に依頼したい。
 - (3) 学術委員会（岡田保典委員長）
Pathology International のオンライン化については、協議事項で諮ることとする。
 - (4) 研究推進委員会（青笹克之委員長）
 - ① 第5回病理学会カンファレンスを、平成20年8月1日・2日に国立成育医療センター梅澤明弘部長を世話人に開催した。テーマは「がん幹細胞」であり、73名が参加した。
 - ② 第6回病理学会カンファレンスは、平成21年7月31日・8月1日に筑波大学加藤光保教授を世話人につくば国際会議場にて開催する。テーマは「病理組織学の新展開」である。
 - (5) 編集委員会（向井 清委員長）
 - ① PIN の投稿数が、2008年は300編を超えると予想される。
 - ② 宿題報告はPINに掲載することになっているが、連名の投稿があったので、病理学賞（宿題報告）授賞者名と研究内容をアナウンスメントとしてPINに掲載することとした。
 - ③ 診断病理の投稿は九州・沖縄支部からが多いが他支部も投稿を奨励する方向で検討したい。
 - (6) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
 - ① 資格審査委員会では、病理専門医更新審査について若干名に内容不備があったので、申請者に問い合わせることとした。
 - ② 施設審査委員会では、認定施設への新規申請について剖検数の不足から認定できない施設があり登録施設への申請を勧めることとした。
 - ③ 2009年度の病理専門医試験は、7月25・26日に京都府立医科大学を会場に行われる。
 - ④ 2009年の細胞診講習会は、3月28・29日に日本大学を会場に行われる。
 - ⑤ 専門医受験申請の際に必要な業績について若干変更し

た。

(7) 医療業務委員会（根本則道委員長）

① コンサルテーション委員会（森永委員長報告）

依頼症例数はやや上昇傾向にある。受付に関してのガイドラインを改定中であり謝金についても引き続き検討中である。コンサルタントの精度管理に関しては現在検討中である。

② 社会保険委員会（稲山委員長報告）

医療課長との勉強会とその内容について報告があった。OSNA法の保険適用についての報告と質疑応答を行った。22年度要望項目に関して全国アンケート調査結果の報告が行われた。

③ 精度管理委員会（羽場委員長報告）

病理診断報告書について検討中である。HER2のコントロールサーベイに関しては、来春までにコントロール標本の作成が終了予定である。現在までに報告された精度管理の再検討と現実的に運用可能な精度管理のガイドラインを検討中である。

④ 剖検・病理業務委員会（谷山委員長報告）

死後針組織診断の是非について報告、質疑応答が行われた。ホルマリン対策に関して「ホルムアルデヒドについて」というページを病理学会HPに作成し、その中にQ&Aで詳細な説明を行っている。IHE-J活動について「病理におけるIHE活動の意義と現状」を病理学会HPに掲載している。

⑤ 癌取り扱い規約病理編作成委員会（代理 根本業務委員会委員長報告）

乳癌（第16版）が2008年9月に発行された。卵巣腫瘍、脳腫瘍は現在改定中である。

(8) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）

① 平成21年度口腔病理専門医試験実施委員を決定した。

② 口腔病理専門医資格更新の審査を行い17名の申請者全員を承認した。

③ 口腔病理専門医制度の基盤整備として、平成18年より実施されている歯科医師臨床研修医制度にともなって口腔病理専門医制度に関する諸規定・細則の改正試案を作成した。病理専門医制度運営委員会と連絡をとりながら同試案を検討することとした。

(9) 教育委員会（覚道健一委員長）

① 病理コア画像の更新・改訂作業計画を決定した。

i. 若手病理医5名をブラッシュアップ委員として任命し専門医受験を目指す若手の目から助言・助力を得ることとした。

ii. 作業日程としては2年以内に作業を終了し、病理学会ホームページにUPの予定である。

② 教育委員会シンポジウムを平成21年度春期総会時に開催するため準備を進めている。

(10) 国際交流委員会（松原 修委員長）

① 既存の国際交流事業は発足から10年目となりそれなりの効果を得たので従来通りのやり方は中止する。このうち招聘事業については総会時会長による海外からの招聘に対して上限50万円の補助を行うこととした。

② 日英交流事業については、隔年シニア1名ジュニア2名を総会時に相互に派遣・招聘することとした。

③ 独交流事業については、隔年シニア1名を相互に派遣・招聘し、教育講演を行うことが取り決められた。

④ アジアの国々の若い病理医を総会に参加・発表してもらう事業を始めることとした。

(11) 支部委員会（居石克夫委員長 代理：井内康輝理事）

① 支部単位でのメールアドレスリストの完備について検討した。現在各支部でメーリングリストの管理をしている。

② 「医療関連死の死因究明制度」に関してモデル事業実施地区から現状報告され意見交換をした。

(12) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）

人材育成委員会では、女性医師や一人病理医の問題、病理をめぐる就労環境などについてアンケートを実施した。4,070名に送り、779名(19%)からの回答があった。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

- 平成21年度事業計画並びに収支予算に関する件
真鍋俊明財務委員長より、事業計画並びに収支予算について説明があった。収入案は、200,360千円、支出案は、199,730千円である。協議の結果、原案のとおり承認した。
- 第56回（平成22年度）秋期特別総会会長選出の件
長村理事長より、第56回（平成21年度）秋期特別総会会長に応募のあった橋本 洋教授（産業医科大学）がプログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果、原案どおり承認し総会へ提案することとした。
- 第100回（平成23年度）総会会長の選出の件
長村理事長より、第100回（平成22年度）総会会長に応募のあった深山正久教授（東京大学）が、プログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果原案どおり承認し総会へ提案にすることとした。
- 第99回（平成22年度）総会宿題報告担当者等の選出の件
岡田俊典学術委員長より、以下のとおり推薦された。宿題報告担当候補者には、張ヶ谷健一（千葉大学）、上出利光（北海道大学）、米澤 傑（鹿児島大学）の3名であり、協議の結果、いずれも原案の通り決定した。また、病理診断シリーズの講演者には、諸星利男（昭和大学）、廣川満良（隈病院）の2名であることが報告された。
- Pathology Internationalのオンライン化に関する件
Pathology Internationalのオンライン化については、所有権のあり方の違いはあるが1,112万円（100%学会）～1,735万円（出版社との折半）の刊行費の減額提案が出版社からあった。所有権を折半にした場合には、契約解

除の際に1年分の収入(約3,000万円)を出版社に支払わなければならないが減額率が高いので、学会が損失を被ることなく対応できる。

契約内容の検討はさらに必要ではあるが、オンライン(オンリー)化をすることを承認した。

また、このことを総会に諮ることとした。

6. 名誉会員の有資格者に関する件

平成21年度新名誉会員の有資格者名簿(144名)を承認し、確認、推戴作業に入ることにした。

7. 新入会員の承認の件

長村理事長より、平成20年度新入会員上期(平成20年4月1日～10月31日)167名が諮られた。協議の結果、原案のとおり決定した。

8. 病理専門医制度に関する件

病理専門医の更新の際の細則、「病理業務に専任していること」を「病理業務に従事していること」に変更することが諮られ、協議の結果、原案のとおり決定した。

◇**会員総会**:平成20年11月20日(木)に松山市総合コミュニティセンターカメラホールにて、正会員3,801名のうち2,151名(うち委任状出席者数2,051名)の出席を得て開催された。

議長に植田規史第54回秋期特別総会会長を選び議事を進行した。議事録署名人に出席者代表として、福嶋敬宜(東京大学)、村田哲也(鈴鹿中央病院)の両会員が指名された。

○報告事項

1. 常任理事会報告

(1) 長村義之理事長

① 平成20年11月18日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,562名、一般会員2,249名、名誉会員274名、学生会員2名の4,087名である。賛助会員3名、機関会員91名である。このうち、病理専門医は2,051名、口腔病理専門医は104名である。

② 新公益法人化に向けての文科省主催の説明会が2回あり、長村理事長と大藪事務局長が出席した。内容の詳細を常任理事会で更に検討中である。

③ 9月9日に長村理事長と稲山社会保険委員長が佐藤敏信保険局医療課長と面談した。10月23日に社会保険委員会等との勉強会を行い、学会の課題等につき質疑応答した。

④ 9月19日に長村理事長と田村浩一病理専門医制度運営委員が田原克志厚生労働省臨床研修推進室長と面談した。初期臨床研修における病理の位置づけ(選択科目に病理診断科を明示)、CPCの現状などについて、種々要望をおこない意見交換した。以下の2点が厚生労働省から指摘された。

i. 臨床研修に関わり、大学病院4万円、病院9.5万円×

研修医総数の剖検経費が教育指導経費として支給されている。

ii. 卒後海外にて臨床研修を行った場合でも、その内容を研修と認めるよう審議できるよう通達した(2008年7月9日 外国の病院で受けた臨床研修の一部を認定するための手続きについて)ので参照してほしい。

⑤ 病理診断の流れ“教室プローベ”について病理学教授、病理診断科科长へ文書を送付することを、今回の理事会にて協議した。この件で、11月14日 黒田理事と稲山社会保険委員長が医政局総務課と面談した。

⑥ 日臨技からの病理標本精度管理についての提案があったので、精度管理委員長の羽場礼次先生と協議してもらったこととした。ISOについて日本適合性認定協会から委員の依頼があるが検討中である。

⑦ 日本産婦人科医会からのベセスダシステムに関するアンケートには、担当委員(坂本穆彦先生、森谷卓也先生)に現状を聞き、常任理事会として回答した。回答内容は、諾であるが、普及するには時間がかかるので両委員とも十分意見交換をして欲しいとの意見をつけた。

⑧ 日本アイソトープ協会との「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニュアル」の抜粋、および日本アイソトープ協会ホームページのURLを会報10月号に掲載した。“治療前立腺内アイソトープの死後摘出”に関する法的な内容もあり是非参照されたい。

⑨ テレパソロジー・バーチャルマイクロスコープ研究会から申し入れのあったアンケートの件について、実施については了承したが、実施の主体・実施事務・経費負担担り先等について根本医療業務委員長を通して問い合わせ中である。

⑩ 剖検輯報の科研費への申請を行なった。本事業に“公開性”が要求されている点を鑑み、公開できる範囲のデータを病理学会ホームページに掲載した。

⑪ 新公益法人化など今後の病理学会の対応を見据えて、機構検討委員会を発足させることとした。企画委員会(深山委員長)に向井清理事を加えたメンバーである。

⑫ 市民公開講座検討委員会では、市民公開講座は学術集会の中で設定し、学会長と連動してテーマを考え、委員会で検討することとした。市民に対する公開講座ということで十分に審議の必要があるということである。

⑬ 病理診断講習会委員会委員は清水道生委員長および森谷卓也委員の他に、福嶋敬宜、鷹橋浩幸、笹島ゆう子、小田義直の各学術評議員に決定した。

⑭ 「医療の安全確保に向けた医療事故による死亡の原因究明・再発防止等の在り方に関する試案(第三次試案)」に対する病理学会のパブリックコメントをホームページ

- ジに掲載した。
- ⑮ Pathology International のインパクトファクターが 2007 年は 1.371 であった。
 - ⑯ 来年度病理学会カンファレンスについて世話人の加藤光保教授（筑波大学）よりプログラム案の提示があった。
 - ⑰ 国際交流事業について国際交流委員会からの提案を検討した。新しい取り組み（例えばアジアとの交流など）を依頼し、そのために、現行の事業の見直しも含めて再提案を依頼した。
 - ⑱ 100 周年記念事業については全会員に趣意書を送り、記念事業の提案も受け付けている。現在まで数件の提案が届いている。来春の総会時に発起人会の開催を検討中である。
 - ⑲ 第 2 回（2008 年）サマーフェストは京都で行われ、報告書が真鍋委員長より提示された。第 3 回（2009 年）は 8 月 29・30 日に東京大学にて開催される。今後は東京・京都で交互に開催される予定である。第 4 回（2010 年）のテーマはリンパ腫を予定している。
 - ⑳ 乳癌センチネルリンパ節の転移の有無に関する迅速遺伝子診断 OSNA 法に 第 3 部として 2000 点保険取載が決定した。同時に凍結切片による形態診断も請求可能である。
- (2) 深山正久副理事長（企画委員会）
- ① 学術評議員制度に関するアンケート調査の結果について報告をする。
 - i. 503 名からの回答があった（12.9%）
 - ii. 現在の学術評議員制度についてどう考えるかという質問には「よい」「悪い」のどちらも 25% 以下であった。
 - iii. 一般会員との権利・義務の違いと会費の差とのバランスについてとの質問には、学術評議員の方に不満が多い。
 - iv. 学術評議員の人数については、多いとの回答が半数であった。
 - v. 学術評議員制度を維持していくべきかどうかとの質問には廃止・継続が約半数ずつであった。
 - vi. 以上のことから、学術評議員制度について廃止の方向を検討するのではなく、今回意見の違いが明瞭であった「一般会員との権利・義務の違いと会費の差のバランス」、「学術評議員の人数」について改善案を検討すべきと考えられた。
 - vii. 今後、学術評議員の会費値下げや、学会運営への積極的な参加・学術に関する企画の提案を積極的に行えるような施策を考えていくことにする。
 - viii. 選挙制度のある程度の改定も考えていく必要がある。
 - ② 100 周年記念事業については、会員から数件の提案があったので、委員会で検討していくこととする。
- (3) 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会）
- ① 第 99 回（平成 22 年度）総会の宿題報告の選考を行い、張ヶ谷健一（千葉大学）、上出利光（北海道大学）、米澤傑（鹿児島大学）の各学術評議員に決定した。
 - ② 平成 21 年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「膵嚢胞性病変（仮題）：諸星利男（昭和大学）」と「甲状腺の濾胞性病変（仮題）：廣川満良（隈病院）」に決定した。
 - ③ Pathology International のオンライン化については、所有権のあり方の違いはあるが 1,112 万円（100% 学会）～1,735 万円（出版社との折半）の刊行費の減額提案が出版社からあった。この減額によって会費の値下げ検討も可能となる。平成 21 年春期総会時には契約更改の決断が必要となる。したがって、契約内容の検討はさらに必要ではあるが、オンライン化をすることの決断は今回の総会で行わなければならない。これについて総会に諮り賛成を得たので、さらに出版社との協議を進めることとした。
- (4) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
- ① 資格審査委員会では、病理専門医更新審査について若干名に内容不備があったので、申請者に問い合わせることとした。
 - ② 施設審査委員会では、認定施設への新規申請について剖検数の不足から認定できない施設があり登録施設への申請を勧めることとした。
 - ③ 2009 年度の病理専門医試験は、7 月 25・26 日に京都府立医科大学を会場に行われる。
 - ④ 2009 年の細胞診講習会は、3 月 28・29 日に日本大学を会場に行われる。
 - ⑤ 専門医受験申請の際に必要な業績について若干の変更があったので、今後の情報に留意して欲しい。
2. 各種委員会報告
- (1) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① コンサルテーション委員会（森永委員長）
依頼症例数はやや上昇傾向にある。受付に関してのガイドラインを改定中であり謝金についても引き続き検討中である。コンサルタントの精度管理に関しては現在検討中である。
 - ② 社会保険員会（稲山委員長）
医療課長との勉強会とその内容について報告があった。OSNA 法の保険適用についての報告と質疑応答を行った。22 年度要望項目に関して全国アンケート調査結果の報告が行われた。
 - ③ 精度管理委員会（羽場委員長）
病理診断報告書について検討中である。HER2 のコントロールサーベイに関しては、来春までにコントロール標本の作成が終了予定である。

現在までに報告された精度管理の再検討と、現実的に運用可能な精度管理のガイドラインを検討中である。

- ④ 剖検・病理業務委員会（谷山委員長）
死後針組織診断の是非について報告，質疑応答が行われた。
ホルマリン対策に関して「ホルムアルデヒドについて」というページを病理学会 HP に作成し，その中に Q&A で詳細な説明を行っている。
IHE-J 活動について「病理における IHE 活動の意義と現状」を病理学会 HP に掲載している。
- ⑤ 癌取扱い規約病理編作成委員会（坂本委員長）
乳癌（第 16 版）は 2008 年 9 月に発行された。卵巣腫瘍，脳腫瘍を現在改定中である。
- (2) 広報委員会（坂本修彦委員長）
求人情報の欄の活性化を各支部長に依頼した。
- (3) 教育委員会（覚道健一委員長）
 - ① 病理コア画像の更新・改定作業計画を進めている。若手病理医をコア画像ブラッシュアップ委員に認定し，病理専門医を目指す若手の目から助言・助力を得ることとした。
 - ② 平成 21 年春の総会で教育シンポジウムを予定している。
- (4) 国際交流委員会（松原 修委員長）
 - ① 既存の国際交流事業は発足から 10 年目となりそれなりの効果を得たので従来通りのやり方は中止する。このうち招聘事業については総会時会長による海外からの招聘に対して上限 50 万円の補助を行うこととした。
 - ② 日英交流事業については，隔年シニア 1 名ジュニア 2 名を総会時に相互に派遣・招聘することとした。
 - ③ 日独交流事業については，隔年シニア 1 名を相互に派遣・招聘し，教育講演を行うことが取り決められた。
 - ④ アジアの国々の若い病理医を総会に参加・発表してもらう事業を始めることとした。
- (5) 支部委員会（居石克夫委員長）
 - ① 支部単位での会員のメールアドレスリストの整備を行うこととした。
 - ② 「医療関連死究明制度」については，モデル事業実施地区からの報告と意見交換を行った。
- (6) 編集委員会（向井 清委員長）
 - ① PIN の編集状況は順調である。2008 年は投稿数が 300 編を超えると予想される。
 - ② 日本病理学賞（宿題報告）授賞者名と研究内容をアウンスメントとして PIN に掲載することとした。
 - ③ 診断病理の投稿は九州・沖縄支部からが多いが他支部も投稿を奨励する方向で検討したい。
- (7) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
 - ① 平成 21 年度口腔病理専門医試験実施委員を決定した。
 - ② 口腔病理専門医資格更新の審査を行い 17 名の申請者

全員を承認した。

- ③ 口腔病理専門医制度の基盤整備として，平成 18 年より実施されている歯科医師臨床研修医制度にともなって口腔病理専門医制度に関する諸規定・細則の改正試案を作成した。病理専門医制度運営委員会と連絡をとりながら同試案を検討することとした。
- (8) 研究推進委員会（青笹克之委員長）
平成 21 年度の第 6 回病理学会カンファレンスは，筑波大学の加藤光保世話人のもと，7 月 31 日（金）8 月 1 日（土）につくば国際会議場にて行なわれる。テーマは「病理組織学の新展開」で病理学会から 9 名，病理学会以外から 3 名の講師を予定している。
- (9) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）
人材育成に関するアンケートを施行し，現在集計と解析中である。

○協議事項は，以下のとおり，承認，決定した。

1. 平成 21 年度事業計画ならびに予算に関する件
事業計画ならびに収支予算は，原案のとおり決定した。
2. 第 56 回（平成 22 年）秋期特別総会会長選出の件
橋本 洋教授（産業医科大学）が推薦された。協議の結果，原案のとおり決定した。
3. 第 100 回（平成 23 年）総会会長選出の件
深山正久教授（東京大学）が推薦された。協議の結果，原案のとおり決定した。

◇平成 21 年度事業計画ならびに収支予算について：社団法人日本病理学会平成 21 年度事業計画ならびに収支予算は，以下のとおりである。

○平成 21 年度事業計画

（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

〔事業の概要〕

- I. 学術集会，研究会等の開催
 1. 学術集会の開催
 - (1) 第 98 回日本病理学会総会（於京都・真鍋俊明会長）
 - (2) 第 55 回日本病理学会秋期特別総会（於東京・松原修会長）
 2. 研究会，講習会等の開催
 - (1) 第 6 回日本病理学会カンファレンス
 - (2) 細胞診講習会
 - (3) 病理診断講習会
 - (4) 技術講習会
 - (5) 各支部における学術・研究集会
 - (6) 第 3 回診断病理サマーフェスト
 3. 公開講座・シンポジウムの開催
- II. 学会誌，学術図書等の発行
 1. 「日本病理学会会誌」の発行（第 98 巻第 1～2 号）
 2. 「Pathology International」の発行（Vol. 59 4～12, Vol. 60 1～3）

- 3. 「診断病理」の発行（第 26 巻第 2～4 号，第 27 巻第 1 号）
- 4. 「日本病理学会会報」の発行（第 255～266 号）
- 5. 「病理専門医部会報」の発行（2009 年 第 2～4 号，2010 年 第 1 号）

III. 研究および調査

- 1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第 50 輯（平成 19 年症例）
- 2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
- 3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

- 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
- 2. 病理専門医の広告
- 3. 研修手帳の実施
- 4. 研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力，連絡

- 1. 学術団体等との会議共催および後援
- 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
- 3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣，学術交流
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流

VI. その他目的を達成するために必要な事業

- 1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
- 2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
- 3. 日本病理学会学術研究賞（A 演説）の授与
- 4. 会員の海外派遣
- 5. 病理学卒前教育の充実
- 6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
- 7. インターネットホームページの充実
- 8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
- 9. 病理専門医制度運営，医療業務，学術・研究等の各種委員会の開催

○平成 21 年度収支予算

（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	50,000	17,000	33,000	
2. 会費収入	71,510,000	72,680,000	△ 1,170,000	
正会員・学術評議員会費	29,000,000	30,000,000	△ 1,000,000	
同終身会費	3,000,000	3,000,000	0	
同一般会員会費	27,000,000	27,000,000	0	
学生会員会費	10,000	30,000	△ 20,000	
賛助会員会費	150,000	250,000	△ 100,000	
機関会員会費	350,000	400,000	△ 50,000	
病理専門医部会費	12,000,000	12,000,000	0	
3. 事業収入	122,700,000	120,050,000	2,650,000	
学術集会収入	80,000,000	80,000,000	0	
論文掲載料収入	900,000	850,000	50,000	
広告料収入	800,000	700,000	100,000	
刊行物発行収入	14,000,000	15,000,000	△ 1,000,000	

専門医制度収入	16,000,000	15,000,000	1,000,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0	
講習会等収入	4,500,000	2,500,000	2,000,000	診断病理 サマーフェスト
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,000,000	500,000	
4. 補助金収入	0	5,000,000	△ 5,000,000	科研費申請中
5. 繰入金収入	2,700,000	2,600,000	100,000	
学術医療基金繰入金収入	2,700,000	2,600,000	100,000	
6. 雑収入	3,400,000	920,000	2,480,000	
受取利息収入	400,000	120,000	280,000	
雑収入	3,000,000	800,000	2,200,000	著作権許諾 収入増額
当期収入合計（A）	200,360,000	201,267,000	△ 907,000	
前期繰越収支差額	44,851,000	43,564,000	1,287,000	
収入合計	245,211,000	244,831,000	380,000	

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
II. 支出の部				
1. 事業支出	161,000,000	162,000,000	△ 1,000,000	
学術集会経費	84,500,000	84,500,000	0	
学会誌発行経費	29,000,000	32,000,000	△ 3,000,000	英文誌発行 経費減額
会報発行経費	2,500,000	2,500,000	0	
剖検輯報刊行経費	10,500,000	11,000,000	△ 500,000	
専門医制度運営経費	9,000,000	9,000,000	0	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0	
支部運営経費	6,500,000	6,000,000	500,000	
学術奨励等経費	4,500,000	4,500,000	0	
講習会等経費	3,500,000	2,000,000	1,500,000	診断病理 サマーフェスト
各種委員会経費	3,000,000	2,500,000	500,000	
2. 管理費	33,130,000	32,680,000	450,000	
人件費	15,000,000	15,000,000	0	
福利厚生費	2,000,000	1,800,000	200,000	
交通費	300,000	350,000	△ 50,000	
通信運搬費	3,000,000	2,500,000	500,000	
会議費	1,500,000	1,000,000	500,000	
印刷費	2,500,000	2,000,000	500,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	500,000	400,000	100,000	
水道光熱費	230,000	230,000	0	
賃借料	2,700,000	2,600,000	100,000	
諸会費	900,000	800,000	100,000	
補助費	200,000	200,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
嘱託費	2,000,000	2,000,000	0	
租税公課（消費税等）	1,500,000	3,000,000	△ 1,500,000	消費税減額
雑費	500,000	500,000	0	
3. その他	4,600,000	4,300,000	300,000	
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療基金引当預金 繰入支出他	3,000,000	2,700,000	300,000	
4. 予備費	1,000,000	1,000,000	0	
当期支出合計（C）	199,730,000	199,980,000	△ 250,000	
当期収支差額（A-C）	630,000	1,287,000	△ 657,000	
次期繰越収支差額（B-C）	45,481,000	44,851,000	630,000	

◇第98回総会(平成21年度): 京都大学を世話機関として真鍋俊明会長、鍋島陽一・松田道行副会長のもとで、平成21年5月1日(金)～5月3日(日)の3日間、国立京都国際会館で開催された。

宿題報告は、笹野公伸教授(東北大学)による「Endocrinology から Intracrinology へーヒト乳癌局所でのエストロゲン合成とその作用」、深山正久教授(東京大学)による「感染症と癌ーEpstein Barr ウイルス関連胃癌の病理」、笹栗靖之教授(産業医科大学)による「ヒスタミンによるコレステロール胆汁酸代謝調節と動脈硬化への関与」の3題であった。

特別講演は、鍋島陽一教授(京都大学)による「Klotho family の発見が切り開いた生体恒常性維持機構」、David A Sinclair 博士(Paul F. Glenn Labs, Department of Pathology, Harvard Medical School)による「Sirtuins as Targets for Treating Age-related Diseases」の2題、教育講演は、佐谷秀行教授(慶應義塾大学)による「癌の浸潤・転移に関わる分子イベント」、小野栄夫教授(東北大学)による「炎症疾患モデルの再発見」、向井 清部長(東京済生会中央病院)による「上皮内癌, 上皮内腫瘍, 上皮内病変: 概念の変遷と臨床的意義」、William D. Travis 博士(Memorial Sloan Kettering Cancer Center)による「International Multidisciplinary Lung Adenocarcinoma Classification」、長谷川秀樹室長(国立感染症研究所)による「新興・再興感染症と病理の関わり」、Antonio G. Nascimento 博士と K. Krishnan Umni 博士(Mayo Clinic)による「Soft Tissue Neoplasms of Low-Grade Malignant Behavior」と「Pitfalls in the Diagnosis of Bone Lesions」の6題が行なわれた。タイムリートピックスとして西川伸一博士(理化学研究所)による「身体の考古学: エピジェネティクスと ips」、Sir James Underwood 博士(Emeritus Professor of Pathology, University of Sheffield, UK)による日英病理学会共催教育講演「Sights Unseen, Truths Untold: Pathology and the Modern Medical Curriculum」が行われた。一般演題は1,040題が発表された。

このほかシンポジウム6件、ワークショップ10件、ランチョンセミナー13件、イブニングセミナー2件、コンパニオンミーティング11件、の発表と討論があった。学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的病理診断講習会(神経系腫瘍性病変 神経病理学総論・非腫瘍性神経系病変)および臓器別病理診断講習会(泌尿器・内分泌・骨軟部・心・血管・消化器・婦人科)が開かれた。

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第55回(平成21年度)秋期特別総会
世話機関: 防衛医科大学校
会 長: 松原 修教授
会 期: 平成21年11月19日(木)～20日(金)
会 場: 九段会館(東京)
- 2) 第99回(平成22年度)総会

世話機関: 順天堂大学

会 長: 樋野興夫教授

会 期: 平成22年4月27日(火)～29日(木)

会 場: 新宿京王プラザホテル

- 3) 第56回(平成22年度)秋期特別総会

世話機関: 産業医科大学

会 長: 橋本 洋教授

会 期: 平成22年11月25日(木)～26日(金)

会 場: 西日本総合展示場他(北九州市)

- 4) 第100回(平成23年度)総会

世話機関: 東京大学

会 長: 深山正久教授

会 期: 平成23年4月28日(木)～30日(土)

会 場: パシフィコ横浜

◇上記総会に関連して開催された理事会、学術評議員会、病理専門医部会ならびに総会について: 平成21年2月24日に東京・フォーレスト本郷、および4月30日にメルパルク京都にて理事会が開催され、5月1日には学術評議員会・病理専門医部会、5月2日には総会が開かれた。総会の席上で、第10回(平成20年度)学術奨励賞授賞式が行われた。また、5月3日には、日本病理学会100周年記念事業発起人会が開催された。

これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長の報告があった。協議事項としては、総会においては平成20年度事業報告並びに収支決算報告、新名誉会員34名の推薦者並びに新学術評議員29名の候補者が協議され、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。また、Pathology Internationalのオンライン化については、オーナーシップの出版社との共同所有や、実施は平成22年1月から行なうこと、それに伴う会費の値下げについては、細則の改定や総会での審議が必要なことから、平成23年度に行うことが協議され、原案のとおり承認された。

このほか、理事会では、常置委員会学術評議員新委員の選出、平成20年度下期の新入会員35名(年度合計202名)が、それぞれ原案のとおり承認された。

また、学術評議員会では、「公益法人化にむけて」(深山企画委員長)などが、病理専門医部会では、「病理関係診療報酬の改定について」(黒田病理専門医部会長)など、それぞれ報告・討議が行われた。100周年記念事業発起人会では、実行委員会の活動が報告された。

◇春期理事会: 平成21年2月24日(火)にフォーレスト本郷にて春期理事会のほか学術委員会等が開催された。理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、向井 清、根本則道、佐藤昇志、白石泰三、居石克夫、上田真喜子(以上理事)石原得博、太田秀一(以上監事)、大藪いづみ、菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行

した。議事録署名人には出席者代表として根本則道、佐藤昇志両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 新医師臨床研修見直しについて、2月5日に“医師臨床研修制度の見直し”について、長村理事長と田村浩一運営委員が厚生労働省田原克志室長と面談した。それに関連して病理専門医の受験資格である研修期間について、病理専門医制度運営委員会で検討してもらうこととした。
- (2) 平成22年度診療報酬改定について向けて、社会保険委員会稲山嘉明委員長より報告を受けた。重点項目は、病理診断料の毎回算定、迅速診断を包括から外すであるが、委員会で詳細を検討し、厚労省医療課に要望する予定である。これまでOSNA法、EGFRの免疫染色が保険収載された。
- (3) 病理画像のブラッシュアップについては、教育委員会覚道委員長より報告があった。3月20日に第一回のブラッシュアップ委員会が兵庫医大で行われる。
- (4) 平成21年度技術講習会についておよび病理学会カンファレンスについて、開催概要が研究推進委員長および世話人から報告があった。
 - 第9回病理技術講習会 病理に役立つ細胞マーキング
平成21年11月18日 モデレーター 青笹克之
横崎 宏 森井英一
 - 第6回日本病理学会カンファレンス
平成21年7月31日、8月1日 つくば国際会議場
世話人 加藤光保
- (5) 新公益法人に関するWGと弁護士との勉強会を1月20日に行った。第2回を2月25日に行う。
- (6) 100周年記念事業実行委員会の組織を決定した。発起人会を5月の総会時に開催することとした(5月3日朝)。企画事業選定・実施委員会が2月23日に開催される。
- (7) 受験時の必要解剖体数の変更および、剖検セミナーの開催などについては、病理専門医制度運営委員会にて検討してもらうこととした。
- (8) 「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡剖検について」マニュアルに対する問い合わせがあったので、剖検・病理技術委員会委員長の谷山先生により詳しい説明を作成してもらい、ホームページに掲載することとした。
- (9) 大菌事務局より定年の2年延長の申し入れがあり、了承した。これに関連して、本年9月ごろには事務局員を1名増やすこととした。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会(深山正久委員長)

- ① 100周年記念事業については理事経験者を発起人になっていただき、幹事あるいは常任理事経験者で実行委員会を発足させた(森巨委員長)。事業は、記念式典、企画記念事業、記念誌の3つがあり記念誌については、

すでに森茂郎委員長の下、大枠が決まってきている。このたび、企画記念事業については、根本理事に選定・実施委員長になっていただき、委員を決定した。第1回の委員会を開催したところである。会員からの応募提案もあり、これらを含めて検討し、5月に開催する発起人会や総会にて方向性を提示する予定である。記念式典については、岡田理事に委員長になっていただき、委員を決定した。また、副事務局長には、佐々木毅学術評議員になっていただいた。

- ② 新公益法人への移行についてはWGを発足させ、弁護士との勉強会を開催した。公益性について、病理学会の事業がどの項目に該当するか、また財務的なことも含めて、勉強していくことにしている。WGは、慶應大学坂元亨宇学術評議員、日本医大内藤善哉学術評議員、東海大学中村直哉学術評議員、横浜市大佐々木毅学術評議員である。
- (2) 病理専門医制度運営委員会(黒田 誠部会長)
 - ① 受験時の必要解剖数の減数および剖検セミナー(春の総会時の系統別のコマを一つ振替える)の受講義務について、運営委員会にて検討することとした。
- (3) 医療業務委員会(根本則道委員長)
 - ① 診療報酬改定について、平成22年度改定に向けて迅速診断を包括から外すことを重点的に要望していくことにしている。内保連のみでなく外保連のサポートも受けることにした。
 - ② 精度管理については、病理診断の報告書、Her2の報告書の標準化はまもなく提示できる。
 - ③ ホルマリンの取扱いについてはホームページに掲載した。また、「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡剖検について」マニュアルについては詳しい説明を作成し、ホームページに掲載する予定である。
- (4) 口腔病理専門医制度運営委員会(山口 朗委員長)
 - ① 口腔病理専門医受験に必要な剖検数については、再検討することとした。
- (5) 教育委員会(覚道健一委員長)
 - ① 病理各論コア画像の改訂をしていく。説明文をつけること、レベルを学生向けにすること、画像の解析度を上げることを目標にしている。5名の若手ブラッシュアップ委員を含めて、3月20日に泊り込みで第1回の委員会を開催することにしている。
- (6) 支部委員会(居石克夫委員長)
 - ① 九州沖縄支部では、九州厚生局主催のレジナビに参加することとした。
 - ② 支部会員のメーリングリストの充実に向けて、各支部ではメールアドレスの登録をお願いしている。Pathology Internationalがオンラインオンリー化すれば、会報は紙ベースでは発行されなくなるのでメーリングリストは必要となる。メーリングリストの登録されてい

ない会員への情報伝達については検討の必要がある。
リストのメンテナンスについては、本部へ変更届けの
あった分につき、変更分だけを時期を限って1年に1
回支部に連絡する方法を検討していくこととした。

(7) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）

- ① アンケートの集計中であり、今後委員に送って解析し、
5月の総会時に結果の発表をする予定である。

○協議事項

1. 第55回（平成21年度）秋期特別総会学術研究賞演説（A演説）・B演説担当者の選出の件

学術委員会より、標記特別総会における学術研究賞演説（A演説）7題（応募16題）、B演説2題（応募4題）の推薦があった。協議の結果、それぞれ原案通り決定した（応募順）。

・学術研究賞演説（A演説）：

- (1) 佐々木素子（金沢大学医学系研究科形態機能病理学）
- (2) 増本 純也（信州大学医学部病理組織学講座）
- (3) 石津 明洋（北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野）
- (4) 山田 健人（慶應義塾大学医学部病理学教室）
- (5) 保坂 直樹（関西医科大学第一病理学教室）
- (6) 坂下 直実（熊本大学大学院医学薬学研究部細胞病理学分野）
- (7) 大上 直秀（広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室）

・B演説：

- (1) 竹内 賢吾（財団法人癌研究会癌研究所病理部）
- (2) 川崎 朋範（山梨大学医学部人体病理学講座）、坂元 吾偉、加藤 良平

2. 第10回（平成20年度）学術奨励賞受賞者の選出の件

学術奨励賞選考委員会より、第10回（平成20年度）学術奨励賞受賞候補者に5名（応募10名）の推薦があった。協議の結果、原案のとおり決定した（ABC順）。

- (1) 松林 純（東京医科大学病理診断学講座）
- (2) 島田 啓司（奈良県立医科大学病理病態学教室）
- (3) 新村 和也（浜松医科大学医学部第一病理）
- (4) 外丸 詩野（北海道大学大学院医学研究科分子病理学分野）
- (5) 山本 宗平（防衛医科大学校病態病理学講座）

3. 平成21年度新名誉会員候補者名簿に関する件

平成21年度新名誉会員候補者の名簿（2月24日現在では、35名）を承認した。

4. 平成21年度新学術評議員候補者名簿に関する件

平成21年度新学術評議員候補者名簿（29名）を承認した。

5. Pathology International オンライン化の件

オンラインオンリー化することは昨秋の総会で承認されているが、これに連動して会費を値下げする場合の値下げ

幅は、オーナーシップをどうするかに係わっており、岡田理事より資料をもとに説明があった。常任理事会から、オーナーシップを50%50%にし、オンラインオンリー化を2010年1月号からとすることが提案された。検討の結果、これを了承した。値下げ幅については、種々のファクターがあるので、さらに検討することとした。オンラインオンリー化に伴い、会報は原則Web配信となるが、年に3回位は紙ベースでの発行する予定である。

6. 国際交流事業の件

国際交流事業としては、日英交流、日独交流、アジアとの交流、総会への外国人講師の招聘という4つのことを考えている。これの予算として、上限150万円ということを検討した。当面はこの予算で実施し、企画にあわせて財務委員会にてその都度検討することとした。

◇理事会：平成21年4月30日（木）メルパルク京都にて理事会および各種委員会が開催された。理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、本山梯一、向井 清、根本則道、坂本穆彦、佐藤昇志、白石泰三、居石克夫、寺田信行、上田真喜子（以上理事）、石原得博、太田秀一（以上監事）、松田道行、鍋島陽一（以上第98回総会副会長）、大藪いづみ、菊川敦子（以上事務局）の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者を代表して井内康輝、白石泰三両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 平成22年度診療報酬改定については、4月20日締切りで要望書を内保連に提出した。また、内保連代表の齋藤壽一先生との面談を4月20日に行ない、病理学会からの要望を伝えて支持を依頼した。主な要望項目は、診療所での病理診断料の算定、迅速診断をDPCから外すこと、病理診断料の毎回算定である。
- (2) 国際交流事業については、京都での総会時に英国よりシニア1名、ジュニア2名を招聘している。また、英国からの新規事業の申し入れについては、国際交流委員会に検討を依頼することとした。
- (3) 公益法人化については、4月1日に第3回目の公益法人WGによる勉強会を開催した。委員で分担して事業の公益性を具体的に書き出しているところである。定款の改定等についても弁護士からアドバイスを受けている。
- (4) 100周年記念事業については、5月3日の発起人会の案内を、資料を添付してお送りした。
- (5) 平成20年度事業報告案と収支決算案を理事会および総会にお諮りする。
- (6) PIN オンライン化について、より具体的な内容を理事会、総会にお諮りする。
- (7) 専門医試験受験時の必要剖検例数については、病理専門

医制度運営委員会に検討を依頼している。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会（深山正久委員長）

- ① 公益法人 WG（中村直哉，内藤善哉，坂本亨宇，佐々木毅 各学術評議員）の勉強会を弁護士を交えて行っている。6月の勉強会后に具体的な申請書案について理事会に提示する予定である。
- ② 認定公益法人を申請するにあたって、定款の改定が必要であるが、その際理事長の選出方法など選挙方法も合わせて検討するため、選挙改革の WG を立ち上げることを考えている。
- ③ 「病理専門家養成プログラム」の提案書の提出を、厚生労働省の医師臨床研修推進室長と相談することとする。

(2) 広報委員会（坂本修彦委員長）

- ① 今学会中に開催される、医師賠償責任保険に関するイブニングセミナーを会員限定で動画配信を予定している。

(3) 学術委員会（岡田保典委員長）

- ① 学術集会の見直し案は開始して2年経つが、開始5年後くらいにはアンケート調査をして、評価とその後どうするかを検討していく予定である。

(4) 研究推進委員会（青笹克之委員長）

- ① 今年の病理学会カンファレンスは7月31日・8月1日の両日、つくば国際会議場で開催される。
- ② 来年の病理学会カンファレンスは8月6日・7日に、岡山コンベンションセンターで開催される。テーマは「炎症と免疫、癌」である。岡山大学の松川昭博教授が世話人であり、講師等については今秋の委員会時に決定することとした。
- ③ 今年の技術講習会は、秋期特別総会の前日（11月18日）に開催される。
- ④ 技術講習会の参加者が特に地方での開催時に少ないことから、開催の時期等につき意見が出されたが 今後の検討課題とすることとした。

(5) 編集委員会（向井 清委員長）

- ① Pathology International は 投稿数が昨年は300を越えた。採択率は約50%である。インパクトファクターは1.371であるが、1.5を越えるくらいを目標としたい。ケースレポートの投稿が多いのでオリジナルの投稿を是非とも理事方にもお願いしたい。
- ② 「診断病理」は、今までは九州沖縄支部からの投稿が多かったが、今年は全国からの投稿も増えてきている。今後は「総説」の掲載も重視していくこととした。

(6) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）

- ① 施設審査委員会については、認定施設と登録施設の更新審査を行った。認定施設については、193施設からの申請があり181施設の更新を認めた。更新が不可であったのは、指導医が常勤でない施設や剖検例数が基

準に達していない施設であった。登録施設については、96施設から更新申請があり94施設の更新を認めた。更新不可であったのは、最近2年間の剖検例数が0体の施設であった。

(7) 医療業務委員会（根本則道委員長）

- ① コンサルテーション委員会（委員長：森永正二郎）
 - i. 平成21年度より、コンサルテーションボードの一部改定とガイドラインの改定をした。標本以外の依頼書等は、事務局へは郵便からメール方式へ移行中で、この場合は手数料が3,000円から2,000円に変更となった。
 - ii. 現況では、コンサルテーションフィーは課さないというのが学会の方針である。

② 社会保険委員会（委員長：稲山嘉明）

- i. 内保連へ提案書を提出した。今年度の要望第1位は全ての保険医療機関で病理診断料を請求できるようにすること、異なる臓器・組織における疾患に関しては同一月内でも病理診断料を算定できるようにすること、術中迅速診断に関してはDPCから除外すること、に絞った。
- ii. 外保連での活動には、まずは外保連試案に掲載されることが必要であり、平成24年度に向けて対応する。
- iii. 悪性中皮腫における免疫染色の保険収載に向けて、ガイドライン作成の要望が環境省よりあり、病理学会として前向きに取り組むこととした。

③ 精度管理委員会（委員長：羽場礼次）

精度管理システム構築の一環としてHER2の免疫組織化学に焦点をしぼり検討している。今年度は拠点病院とサーベイ参加施設を対象に実施する予定である。

④ 剖検・病理技術委員会（委員長：谷山清己）

- i. 妊産婦死亡剖検マニュアルに対して、委員会で意見をまとめ送付した。
- ii. 前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニュアルに対するQ&Aを作成中である。

⑤ がん取扱い規約小委員会（委員長：坂本修彦）

脳腫瘍・卵巣腫瘍・胃癌取り扱い規約が年内に改訂される。

⑥ 病理診断体制専門委員会

現在は医療業務委員会の下部委員会ではないが、今後も医療業務委員会と連携して活動をしていく。

(8) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）

- ① 口腔病理専門医受験資格の改定案を検討中である。

(9) 教育委員会（覚道健一委員長）

- ① 本総会にて教育委員会シンポジウム「病理学の学生教育と卒後教育」を開催する。
- ② 病理各論コア画像の改訂を行うため、委員と若手協力

委員によるブラッシュアップ委員会を開催した。

(10) 支部委員会（居石克夫委員長）

- ① 支部ごとのメーリングリストを整備中である。
- ② 教室プロローベの問題について話し合った。

(11) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）

- ① アンケート結果の集計を行い、そのデータをもとに解析を行なった。女性からのアンケート回答が多く、意識の高さを感じた。20代では女性病理医は46%であるので、10年20年後には、男女の数のバランスが変わるのではないかと。女性病理医に関しては、育児との両立等の支援の必要性がある。データの解析をもとに、委員会として提言をまとめ、紙ベースあるいはホームページでの公開をしていきたい。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成20年度事業報告ならびに収支決算に関する件

真鍋財務委員長より、平成20年度事業報告並びに収支決算書（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）（案）の説明と提案があった。当期収入は227,132,008円、当期支出は219,017,444円であり、当期収支差額は8,114,564円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は62,864,620円である。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることとした。

2. 平成21年度新名誉会員の推戴に関する件

長村理事長より、平成21年度新名誉会員推戴者名簿(34名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることとした。

3. 平成20年度新入会員の承認の件

長村理事長より、平成20年度新入会員名簿下期(平成20年11月1日～平成21年3月31日)分(35名年間202名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。

4. Pathology International オンライン化の件

平成21年2月24日の理事会において、①オーナーシップについては、値引き率がよくなるので、学会とWB社との共同所有とする、②契約については、1年前倒しで平成22年1月に行うこと、を決定した。以上のことを確認し、本学会中の総会にて審議・決定することを了承した。また、会費値下げについては、総会での審議・決定、細則の改定が必要なことから、平成23年度から実施予定とすることを了承した。

5. 国際交流委員会の件

「Japan-European Collaborative Award in Pathology」の提案が、英国病理学会よりあった。英国側日本側から双方で2,500ポンドずつ出している賞である。協議の結果、前向きに検討することとした。

6. 専門医試験受験資格の件

「病理診断に関わる研修についての細則 2.(1)いちじるしく片寄らない症例についみずからの執刀による病理解剖

(剖検)を行い、病理解剖最終診断報告書を作成した剖検例を50例以上経験していること」の改定について検討した。協議の結果、50例以上を40例以上に変更し、剖検講習会の受講を必須とすることとした。ただし、平成22年度の試験については、50例以上あるいは、40例以上プラス剖検講習会の受講のどちらでも可とすることとした。

- ◇ 会員総会：平成21年5月2日（土）に国立京都国際会館にて、正会員3,684名のうち2,014名（うち委任状出席者1,594名）の出席を得て開催された。議長に真鍋俊明会長を選び議事を進行した。議事録署名人には、出席者を代表して森正也（三井記念病院）、長嶋洋治（横山立市立大学）の両会員が指名された。

○報告事項

常任理事会報告

1. 長村義之理事長

① 理事長報告

- 1) 平成21年4月30日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,541名、一般会員2,215名、名誉会員271名の4,027名である。賛助会員3名、機関会員91名である。また、病理専門医は1,994名、口腔病理専門医は103名である
- 2) 診療標榜科をめぐる病理診断体制については、病理学教授および認定施設の病理部門責任者に向けて文書を送付した。
- 3) 平成22年度の診療報酬改定に向けては、重要項目を絞って要望をしていくところである。
- 4) 本年の理事・理事長選挙についての日程は、追って会報に掲載する。
- 5) 初期臨床研修見直しについて、2月5日に厚生労働省田原克志室長と面談した。後期研修については「医療における安心・希望をもたらす専門医・家庭医（医師後期臨床研修制度）の在り方に関する研究班」（土屋了介主任研究者）の提言が3月25日に出された。
- 6) 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」は、本年度で当初の5年を終えるが、2年を目処に事業を継続することが決定された。中心的な4学会（内科学会 外科学会 病理学会 法医学会）による、関連学会協議会が設置された。
- 7) 臨床研究、学会発表、論文投稿に際しての利益相反（COI）に関する規定作成については、倫理委員会に検討を依頼することとした。

② 広報委員会

- 1) HP運営は順調に行われている。
- 2) 今学会中に開催された、医師賠償責任保険に関するイブニングセミナーを会員限定で動画配信を予定している。

③ 研究急推進委員会

- 1) 本年の病理学会カンファレンスは、7月31日8月1

日につくば国際会議場で開催される。来年は、8月6日7日に岡山コンベンションセンターで開催される。

- 2) 本年の技術講習会は、11月18日東京で開催される。テーマは「病理に役立つ細胞マーキング」である。
- ④ 編集委員会
 - 1) Pathology International の投稿が昨年は300を越えた。採択率は50%弱である。ケースレポートの投稿が多いので、オリジナル論文の投稿をお願いしたい。
 - 2) 「診断病理」は順調に投稿があった。
 - 3) 剖検輯報は、現在、第50輯を印刷中である。
- ⑤ 病理専門医制度運営委員会
 - 1) 施設審査委員会については、認定施設と登録施設の更新審査を行った。認定施設については181施設が更新可、12施設が更新不可である。登録施設については94施設が更新可、2施設が更新不可であった。
 - 2) 本年と来年は、専門医試験は京都府立医科大学で行われる。
 - 3) 来年の細胞診講習会は、神戸大学の伊藤智雄教授の世話で行なわれる。
- ⑥ 口腔病理専門医制度運営委員会
 - 1) 口腔病理専門医受験資格について検討中である。
 - 2) 病理各論コア画像のブラッシュアップ委員会に参加している。
- ⑦ 医療業務委員会
 - 1) コンサルテーション委員会（森永正二郎委員長）
 - i. 標本以外の依頼書等は、事務局へは郵便からメール方式へ移行中で、この場合は手数料が3,000円から2,000円に変更となった。
 - ii. 現況では、コンサルテーションフィーは課さないというのが学会の方針である。
 - 2) 社会保険委員会（稲山嘉明委員長）
 - i. 内保連へ提案書を提出した。今年度の要望第1位は全ての保険医療機関で病理診断料を請求できるようにすること、異なる臓器・組織における疾患に関しては同一月内でも病理診断料を算定できるようにすること、術中迅速診断に関してはDPCから除外すること、に絞った。
 - ii. 外保連での活動には、まずは外保連試案に掲載されることが必要であり、平成24年度に向けて対応する。
 - iii. 悪性中皮腫における免疫染色の保険収載に向けて、ガイドライン作成の要望が環境省よりあり、病理学会として前向きに取り組むこととした。
 - 3) 精度管理委員会（羽場礼次委員長）
 精度管理システム構築の一環としてHER2の免疫組織化学に焦点をしばり検討している。今年度は
 - 拠点病院とサーベイ参加施設を対象に実施する予定である。
- 4) 剖検・病理技術委員会（谷山清己委員長）
 - i. 妊産婦死亡剖検マニュアルに対して、委員会で意見をまとめ送付した。
 - ii. 前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニュアルに対するQ&Aを作成中である。
- 5) がん取扱規約委員会（坂本穆彦委員）
 脳腫瘍・卵巣腫瘍・胃癌取り扱い規約が年内に改訂される。
- 6) 病理診断体制専門委員会（水口國雄委員長）
 標榜科にともなう、病理診断体制の課題について、検討中である。
- ⑧ 教育委員会
 - 1) 本総会にて教育委員会シンポジウム「病理学の学生教育と卒後教育」を開催した。
 - 2) 病理各論コア画像の改訂を行うため、委員と若手協力委員によるブラッシュアップ委員会を開催した。
- ⑨ 国際交流委員会
 - 1) 英国よりシニアパソロジストとしてUnderwood教授、ジュニアパソロジスト2名が来日し、教育講演とポスター発表を行う。
 - 2) 日英コラボレーションアワードについて前向きに取り組むことになった。
 - 3) 日独交流事業については、2010年に日本からドイツへ、2011年にドイツから日本へシニアパソロジストを派遣、招聘し教育講演を行うことにした。
 - 4) アジアとの交流事業では英語でのセッションを総会時に設け、そこに招待する。今年の秋の病理学会から試みる。
- ⑩ 支部委員会
 - 1) 支部メールアドレス登録については、全支部ともほぼ終了し、今後、シミュレーションを経て実働することが望まれる。
 - 2) 医療施設以外でおこなわれた病理診断（いわゆる教室プロベ）の問題について話し合った。
2. 黒田 誠常任理事（病理専門医制度運営委員会）
 「病理診断に関わる研修についての細則 2.(1)について、剖検数を50例以上から40例以上に変更し、剖検講習会の受講を必須とすることとした。ただし、平成22年度の試験については、50例以上あるいは、40例以上プラス剖検講習会の受講のどちらでも可とすることとした。この、剖検講習会は、来年以降も毎年行なわれる。また、受験資格の剖検数が減ることに関して、より精度の高い剖検の指導が指導者に望まれる。
3. 深山正久副理事長（企画委員会）
 - ① 「診断病理サマーフェスト：病理と臨床との対話」は、今年は東京大学にて開催する。テーマは、骨軟部疾患

の病理と臨床である。

- ② 病理学会 100 周年記念事業については、発起人会、実行委員会を立ち上げ、準備を進めている。
- ③ 公益認定法人への移行については、ワーキンググループ（内藤善哉、中村直哉、坂元亨宇、佐々木毅 各学術評議員）を立ち上げ勉強会を行なっている。定款の改定が必要であるが、大筋では現在の定款の文言表記を変えていく方向である。これに関連して、理事長の選出の仕方等も検討していく必要があるため、選挙制度の改革を含めて新たなワーキンググループの設置も考えている。本年度中には、具体的な申請書の作成を進め、その内容については会員に提示し、意見を聞くことにする。

○協議事項

1. 平成 20 年度事業報告ならびに収支決算に関するの件
真鍋財務委員長より、平成 20 年度事業報告並びに収支決算書（平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで）（案）の説明と提案があった。協議の結果、原案の通り承認された。当期収入は 227,132,008 円、当期支出は 219,017,444 円であり、当期収支差額は 8,114,564 円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は 62,864,620 円である。
2. 新名誉会員の推戴に関する件
長村義之理事長より、平成 21 年度新名誉会員推戴者名簿（34 名）が諮られた。
協議の結果、原案のとおり承認された。
3. 新学術評議員の承認の件
長村義之理事長より、平成 21 年度新学術評議員名簿（29 名）が諮られた。
協議の結果、原案のとおり承認された。
4. Pathology International オンライン化の件
会費の値下げ（値引き率は継続審議）を前提としたオーナーシップの出版社との協同所有、契約を平成 22 年の 1 月に行なう。会費の値下げについては、細則の改定や総会での審議が必要なことから、平成 23 年度に行なうことが諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。

◇ 新名誉会員の推戴について：平成 21 年度における新名誉会員は、下記の 34 名が推戴された。（ABC 順）

赤木 制二	藤本 輝夫	藤田 昌宏	原 一夫
早川 欽哉	星 昭二	伊集院直邦	岩田 康
鎌田 昭次	河合紀生子	河上 牧夫	久原 肇
真柄 直郎	松本 一仁	三橋 武弘	宮原 晋一
森 秀樹	森 尚義	中西 和夫	小川 勝洋
大森 高明	小野 巖	下田 忠和	杉崎 祐一
鈴木 利光	田所 衛	高梨利一郎	寺嶋 一夫
手塚 文明	徳田 忠昭	津田 洋幸	若林 淳一
綿貫 勤	吉田 浩己		

◇ 新学術評議員の決定について：平成 21 年度新学術評議員は、下記の 29 名に決定した。（ABC 順）

馬場洋一郎	遠藤 希之	藤井 誠志	深澤 由里
原 由紀子	井野元智恵	梶原 博	熊木 伸枝
宮園 浩平	本下 潤一	中村 暢樹	丹羽 秀樹
大上 直秀	坂谷 貴司	笹島ゆう子	佐藤 保則
関戸 康友	仙谷 和弘	柴原 純二	島田 啓司
下条 久志	唐 小燕	内山 明央	渡邊 麗子
柳下 寿郎	山田 隆司	山元 英崇	米田玄一郎
塚 貴司			

◇ 平成 20 年度学術奨励賞の授与について：平成 21 年 5 月 2 日の総会席上長村理事長から、第 10 回（平成 20 年度）学術奨励賞受賞者 松林 純（東京医科大学）、島田啓司（奈良県立医科大学）、新村和也（浜松医科大学）、外丸詩野（北海道大学）、山本宗平（防衛医科大学校）に、賞状および記念品が授与された。

1. G protein-coupled receptor kinase 4 の過剰発現と乳癌の腫瘍形成との関連性について：松林 純（東京医科大学病理診断学講座）
2. 泌尿器科腫瘍における DNA 修復蛋白 ALKBH family の分子病理学的意義について：島田 啓司（奈良県立医科大学医学部病理病態学教室）
3. 癌染色体不安定性の要因としての中心体複製制御機構異常に関する研究：新村 和也（浜松医科大学医学部第一病理）
4. 慢性ウイルス感染症や自己免疫疾患など難治性炎症性疾患の病態解明：外丸 詩野（北海道大学大学院医学研究科分子病理学分野）
5. 卵巣明細胞腺癌における新たな発癌経路の提唱と分子機構の解明：山本 宗平（防衛医科大学校医学研究科病態病理学講座）（ABC 順）

◇ 学術研究賞（A 演説）、B 演説の選考について：第 55 回（平成 21 年度）秋期特別総会学術研究賞演説（A 演説）、B 演説については、それぞれ 16 題、4 題の応募があった。2 月 24 日の学術委員会で審議し、投票の結果、7 題、2 題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞（A 演説）（応募順）

1. 細胞老化に着目した肝胆道系疾患の発生・進展機構の解明：佐々木素子（金沢大学医学系研究科形態機能病理学）
2. インフラマソームの機能から考える炎症疾患発症の分子基盤：増本純也（信州大学医学部病理組織学講座）
3. モデル動物の解析による自己免疫疾患発症機序の多面的理解：石津明洋（北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野）
4. 疾患モデルの確立によるヒトがんの生体内での分子病理学的研究：山田健人（慶應義塾大学医学部病理学教室）
5. 胸腺移植併用による次世代の骨髄移植法の開発—T 細

胞の分化増殖・制御に向けてー：保坂直樹（関西医科大学第一病理学教室）

6. コレステロールによるマクロファージの機能制御：ACAT1 陽性特異オルガネラの同定から細胞内コレステロール代謝制御，ファゴゾーム機能障害，C型ニーマンピック病治療戦略まで：坂下直実（熊本大学大学院医学薬学研究部細胞病理学分野）
7. SAGE法で同定したReg IVの各種がんにおける分子病理学的意義：大上直秀（広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室）

B 演説（応募順）

1. Lymphomatoid Gastropathy：本邦発の新しいNK細胞増殖症：竹内賢吾（財団法人癌研究会癌研究所病理部）
2. 乳腺の神経内分泌型非浸潤性乳管癌：川崎朋範（山梨大学医学部人体病理学講座）坂元吾偉，加藤良平

◇平成21年細胞診講習会：根本則道（日本大学）世話人・清水道生（埼玉医科大学）モデレーターのもとで，平成21年3月28日（土）～29日（日），日本大学にて実施され，89名が受講した。講師は，伴 慎一（済生会川口総合病院），廣瀬隆則（埼玉医科大学），村田晋一（埼玉医科大学），根本則道（日本大学），桜井孝規（埼玉医科大学），清水道生（埼玉医科大学），清水禎彦（埼玉医科大学），安田政実（埼玉医科大学），の8名であった。

◇第27回病理専門医試験について：平成21年度の病理専門医試験は，平成21年7月25日（土），7月26日（日）に京都府立医科大学にて実施された。80名が受験して，64名が合格した（合格率80%）。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は，以下のとおりである（登録年月日：平成21年7月29日）。

平成21年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名	認定番号	姓 名
2744	田中 弘之	2760	辻 隆裕
2745	藤田 久美	2761	豊田 亮彦
2746	伏見聡一郎	2762	小池 裕人
2747	佐藤 朋子	2763	曾我 美子
2748	濱崎 慎	2764	石川 典由
2749	山田 壮亮	2765	松影 昭一
2750	大森 泰文	2766	工藤 和洋
2751	星本 和種	2767	梶浦 大
2752	村垣 泰光	2768	内橋 和芳
2753	木村 太一	2769	山本 鉄郎
2754	藤田 茂樹	2770	池村 雅子
2755	木澤麻由紀	2771	乳井 美樹
2756	飛田 陽	2772	武田 広子
2757	牧野 睦月	2773	近藤 譲
2758	菰原 義弘	2774	飯塚 利彦
2759	米田玄一郎	2775	小野寺正征

2776	田中 優子	2792	山田 拓司
2777	谷川 健	2793	坂元 一葉
2778	村上 善子	2794	本間 尚子
2779	大島 尚子	2795	飯塚 徳重
2780	御子神哲也	2796	大上 直秀
2781	伊藤 僚子	2797	市原 真
2782	外岡 暁子	2798	関 れいし
2783	高橋 葉子	2799	河合 繁夫
2784	森川 鉄平	2800	永野 輝明
2785	小林実喜子	2801	中井真由美
2786	瀧山 晃弘	2802	田中 健大
2787	丹藤 創	2803	林 伸一
2788	宮永 朋実	2804	伊藤 崇
2789	豊住 康夫	2805	鹿取 正道
2790	大越 忠和	2806	櫛谷 桂
2791	米田亜樹子	2807	桑江 優子

◇第17回口腔病理専門医試験について：平成21年度の口腔病理専門医試験は，第27回病理専門医試験と同日，同会場で行われた。3名が受験して2名が合格した（合格率66.7%）。合格者氏名並びに口腔病理専門医登録番号は，以下のとおりである（登録年月日：平成21年7月28日）。

平成21年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	氏 名	口腔認定番号	氏 名
142	矢田 直美	143	佐藤 淳

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について：資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は，以下のとおりである。

1. 病理専門医資格更新者氏名

第1回 認定 64名

更新期間 平成21年（2009年）4月1日から5年間

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
14	山口 和克	91	指方 輝正
15	鈴木 庸之	94	里館 良一
16	中田 勝次	100	松山 睦司
18	長尾 孝一	103	植松 邦夫
19	牛込新一郎	104	鈴木 恒道
24	櫻井 勇	105	今村 正克
27	菊池 昌弘	109	桜井 幹己
37	亀谷 徹	110	武川 昭男
44	高橋 徹	111	和田 昭
46	遠城寺宗知	112	山邊 博彦
49	橋本 重夫	113	廣田 映五
58	並木 恒夫	114	荒井 茂
67	高柳 尹立	122	森 道夫
73	宇多 弘次	130	本多 光弥

131	齋藤 武郎	233	松尾 武	1415	香川 典子	1431	佐藤 敏美
133	菊地 浩吉	236	栗林 宣雄	1416	小島 勝	1432	杉原 洋行
152	桂 栄孝	239	入 久巳	1418	本告 匡	1433	高橋 学
153	浜家 一雄	240	笹野 伸昭	1419	長田 憲和	1434	辻村 俊
164	笠原 正男	241	清水 興一	1421	藤原 恵	1435	有馬 良一
169	有輪 六朗	255	松尾 英一	1422	井村 穰二	1436	石原 明
170	春日 孟	256	白澤健二郎	1423	小山 敏雄	1437	岩井 泰博
182	青木 重久	261	沢田 眞治	1424	大野 順弘	1438	三浦 弘資
183	野坂 謙二	264	羽山 忠良	1425	渋谷 宏行	1439	菅間 博
191	佐々木正道	265	森 武三郎	1426	菅 三知雄	1440	佐々木恵子
198	山田 喬	269	本間 学	1427	安倍 邦子	1441	定平 吉都
199	鈴木 実	278	岡田 聰	1428	鈴木 雅子	1442	杉谷 雅彦
204	松本 正朗	279	川村 貞夫	1430	中島 豊	1445	沢辺 元司
205	福田 純也	292	菊地由生子				
219	石河 利隆	303	岡崎 悦夫				
222	飯田 萬一	304	嶋田 裕之				
231	堤 啓	307	京極 方久				
232	田口 孝爾	309	石原 好弘				

第6回(第1回試験) 認定 24名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1144	中峯 寛和	1162	提嶋 真人
1146	重松 和人	1163	佐多徹太郎
1147	兼子 耕	1164	小野 謙三
1151	立野 正敏	1165	向井 清
1154	黒田 誠	1166	志賀 淳治
1155	森永正二郎	1168	四方 伸明
1156	鈴木 正章	1169	中村 敬夫
1157	岡田 基	1170	佐野 壽昭
1158	蛇澤 晶	1171	山田 英二
1159	福屋 崇	1172	五島 岸子
1160	廣川 満良	1173	下山 則彦
1161	小林 寛	1174	伊藤 雄二

第11回(第6回試験) 認定 46名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1390	永山 剛久	1403	田中 亨
1391	早川 清順	1404	相田 真介
1393	松野 吉宏	1405	蔵野 良一
1394	堀内 啓	1406	米満 伸久
1396	植草 利公	1409	青木 一郎
1397	仁木 利郎	1410	千葉 諭
1398	齋藤 勝彦	1411	深津 俊明
1399	上田 善道	1412	今北 正美
1400	横井 豊治	1413	石井 英昭
1401	大林 千穂	1414	伊藤 秀明

第16回(第11回試験) 認定 62名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1683	綾田 昌弘	1717	木佐貫 篤
1684	物部 泰昌	1718	佐々木素子
1685	高川 竜子	1720	横山 宗伯
1687	立山 義朗	1721	安水 良知
1688	後藤 敏	1723	中村 直哉
1690	池田 健	1724	森 正也
1691	小澤 享史	1725	白濱 浩
1692	村上 一郎	1726	野元 三治
1693	矢野 博久	1727	杉田 敦郎
1694	有広 光司	1728	渡邊 一男
1695	廣島 健三	1729	杉野 隆
1696	亀山 香織	1730	高橋 啓
1697	笠井 謙次	1731	井関 充及
1698	伊丹真紀子	1732	小山田ゆみ子
1699	国村 利明	1733	石川由起雄
1700	八木橋法登	1734	村上 知之
1701	足立 靖	1735	桂 奏
1702	今野 暁男	1736	南川 哲寛
1703	中村 宗夫	1738	前田 環
1704	泉 美貴	1739	八尾 隆史
1705	根本 哲生	1740	戸田 修二
1706	加藤 優子	1741	北島 信一
1707	望月 衛	1742	小川久美子
1708	柏原 賢治	1743	牧 和夫
1710	岸田由起子	1745	田代 和弘
1711	新井 一守	1746	飯原久仁子
1712	岩田 純	1747	田中 祐吉
1713	明石 巧	1748	森 良雄
1714	矢澤 卓也	1749	梅津 哉
1715	堀口 尚	1750	賀集 一平
1716	松本 美幸	1751	長谷川 剛

第21回(第16回試験) 認定 65名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

2020	中山 崇	2054	伊藤利江子
2021	前島 新史	2055	大荷 澄江
2022	島松 一秀	2056	福澤 龍二
2023	弓場 吉哲	2057	下条 久志
2024	覚野 綾子	2058	鹿島 健司
2025	坂田 慶太	2059	大谷 方子
2026	北岡 光彦	2060	畠山 金太
2027	大久保貴子	2061	藤原 正親
2028	真砂 園真	2063	徳差 良彦
2029	保坂 典子	2064	宇於崎 宏
2031	原田 智子	2065	高田 明生
2032	久力 権	2067	北澤 理子
2033	西山 泰由	2068	大屋 正文
2034	坂下 直実	2069	山野 剛
2035	崎田 健一	2070	宮城 洋平
2036	飯島 美砂	2071	二口 充
2037	山内 道子	2072	飛岡 弘敏
2038	加藤 誠也	2073	風間 暁男
2039	岡田 夢	2074	安倍 雅人
2040	江澤 英史	2075	内藤 慎二
2041	佐藤勇一郎	2076	塩澤 哲
2042	桜井 孝規	2077	榊澤 容子
2043	小海 康夫	2078	小池 淳樹
2044	中山 吉福	2079	平野 博嗣
2045	藤田 昌幸	2081	宮田 和幸
2046	笹栗 毅和	2082	原田 祐治
2047	坂元 和宏	2083	倉園 普子
2048	渡邊 千尋	2084	田中 正光
2049	瀬戸口美保子	2085	秋山 隆
2050	白川 敦子	2086	干川 晶弘
2051	矢持 淑子	2087	鰐淵 英機
2052	今村 好章	2088	谷岡 書彦
2053	若狭 朋子		

第26回(第21回試験) 認定 71名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

2371	波多野 弁	2379	入江 理恵
2372	伊藤しげみ	2380	前田 永子
2373	山口 倫	2381	奥野 知子
2374	マリア メルニエイ	2382	兵頭 隆史
2375	桜井 礼	2383	久野 敏
2376	阿部 佳子	2384	松山 篤二
2377	江口 香	2385	田代 敬
2378	大月 寛郎	2386	大森 昌子

2387 吉田 牧子

2388 潮見 隆之

2390 前田 一郎

2391 下山田博明

2393 土井 玲子

2394 山崎 文朗

2395 斉藤 仁昭

2396 小松 正代

2397 上野 万里

2398 柳本 邦雄

2399 本間 琢

2400 白瀬 智之

2401 小田中美恵子

2402 安井 寛

2403 藤ヶ崎純子

2404 山本 尚

2405 佐久間裕司

2406 尾崎 敬

2407 松林 純

2408 杜 ぶん林

2409 川井 久美

2410 西山 憲一

2411 樋野 陽子

2412 河崎 秀陽

2413 中村 光利

2414 高屋敷典生

2415 二之宮謙次郎

2416 三橋 智子

2417 高橋恵美子

2418 神戸美千代

2419 石津 明洋

2420 松山 高明

2421 神谷 誠

2422 伊藤 栄作

2423 榎本 泰典

2424 横内 幸

2425 弘中 貢

2426 石川 雅士

2427 小川 史洋

2428 中島 広聖

2430 秋山 裕

2431 秋田 英貴

2433 西村 ゆう

2434 唐 小燕

2435 新井 義文

2436 池田 善彦

2437 串田 吉生

2438 塩見 達志

2440 長濱 清隆

2441 鳥越 俊彦

2442 斉藤 光次

2443 清水辰一郎

2444 小川 高史

2445 玉井 千里

2446 川崎 朋範

第5回 認定 2名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から4年間

認定番号 氏名

1012 川口 隆憲 1111 古賀 誠

第8回(第3回試験) 認定 1名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から2年間

認定番号 氏名

1244 内間 久隆

第9回(第4回試験) 認定 1名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から3年間

認定番号 氏名

1285 中村 卓郎

第13回(第8回試験) 認定 1名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から2年間

認定番号 氏名

1513 赤池 康

第20回(第15回試験) 認定 1名

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から4年間

認定番号 氏名
2009 塚 正彦**第25回(第20回試験) 認定 1名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から4年間

認定番号 氏名
2307 下山 英**2. 口腔病理専門医資格更新者氏名****第1回 認定 4名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名
5 片桐 正隆 18 二階 宏昌
17 齋藤 武郎 20 田中 昭男**第6回(第1回試験) 認定 2名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名
79 辻内 俊文 81 安彦 善裕**第11回(第6回試験) 認定 5名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名
94 長谷川博雅 97 入江 太朗
95 伊藤 由美 99 八重樫 弘
96 大内 知之**第16回(第11回試験) 認定 5名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から5年間

認定番号 氏名
117 富永 和也 120 齋藤 隆明
118 久山 佳代 121 藤原美恵子
119 沖村 明**第10回(第5回試験) 認定 1名**

更新期間 平成21年(2009年)4月1日から4年間

認定番号 氏名
88 小野寺 健**◇平成20年度認定病院・登録施設(第31回)の審査について:**

認定施設、登録施設としての新規の申請は、27件、25件であった。審査の結果、それぞれ19件、25件が承認された。認定(登録)期間は、平成20年4月1日から平成22年3月31日までである。

(1) 認定施設

認定番号 病院名

1014 砂川市立病院
2031 公立置賜総合病院
3085 医療法人社団木下会千葉西総合病院
3134 医療法人社団圭春会小張総合病院
3135 国家公務員共済組合連合会立川病院
3136 青梅市立総合病院
3137 東京北社会保険病院
3138 医療法人社団ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院
3950 埼玉医科大学国際医療センター
3951 順天堂大学医学部附属練馬病院
4053 沼津市立病院
4084 市立四日市病院
4085 愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院
4086 医療法人宏潤会大同病院
5084 社会医療法人誠光会草津総合病院
6049 JR西日本広島鉄道病院
6050 松江市立病院
6051 済生会今治病院
6052 医療法人近森会近森病院**(2) 登録施設**

登録番号 病院名

2030 青森労災病院
3114 大田原赤十字病院
3115 医療法人社団日高会日高病院
3116 町田市民病院
3117 済生会横浜市東部病院
4112 NHOまつもと医療センター中信松本病院
4113 長野中央病院
4114 福井赤十字病院
5086 京都桂病院
5087 医療法人生長会府中病院
5088 大阪鉄道病院
5089 姫路聖マリア病院
5090 医療法人公仁会姫路中央病院
6055 鳥取赤十字病院
6056 独立行政法人国立病院機構関門医療センター
6057 総合病院坂出市立病院
6058 社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院
7061 福岡県済生会二日市病院
7062 独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
7063 独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
7064 NTT西日本九州病院
7065 独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
7066 財団法人慈愛会今村病院分院

- 7067 独立行政法人国立病院機構沖縄病院
7068 医療法人白十字会白十字病院

- 5021 兵庫県立淡路病院
6017 広島市立安佐市民病院

◇平成 21 年度認定病院・登録施設の更新について：認定病院・登録施設としての更新申請は、審査の結果、それぞれ 181 施設および 94 施設の更新が認められた。認定（登録）期間は、平成 21 年 4 月 1 から平成 23 年 3 月 31 日までである。

平成 21 年度病理専門医研修施設（認定施設）更新機関
（第 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30 181 施設）
期間 2 年間 平成 21 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

第 2 回 認可（13 施設）

認定番号 施設名

- 2005 山形県立中央病院
2006 (財) 竹田総合病院
3019 埼玉県立がんセンター
3020 (財) 癌研究会 有明病院
3021 JR 東京総合病院
3022 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
4007 新潟市民病院
4008 名古屋第一赤十字病院
4009 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
5009 大阪府立急性期・総合医療センター
5010 独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院
7002 九州厚生年金病院
7003 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

第 4 回 認可（2 施設）

認定番号 施設名

- 3028 日本赤十字社医療センター
4010 長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院

第 6 回 認可（5 施設）

認定番号 施設名

- 3035 越谷市立病院
3039 総合病院 国保旭中央病院
3040 東京都立清瀬小児病院
4015 長野赤十字病院
5017 奈良県立奈良病院

第 8 回 認可（8 施設）

認定番号 施設名

- 3045 公立学校共済組合 関東中央病院
3046 東京都立府中病院
4017 静岡県立総合病院
4018 社会保険中京病院
5019 (財) 日本生命済生会 附属日生病院
5020 兵庫県立西宮病院

第 10 回 認可（10 施設）

認定番号 施設名

- 3002 群馬県立がんセンター
3052 伊勢崎市民病院
3054 東京都済生会中央病院
4024 長岡赤十字病院
4025 富士市立中央病院
4026 聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院
4027 富山県立中央病院
5012 (財) 住友病院
5025 大阪府立母子保健総合医療センター
7011 北九州市立医療センター

第 12 回 認可（10 施設）

認定番号 施設名

- 3060 (株) 日立製作所 日立総合病院
3061 東京歯科大学市川総合病院
3062 東京都立墨東病院
3063 公立昭和病院
3064 恩賜財団済生会 横浜市南部病院
4030 公立陶生病院
6019 松山赤十字病院
7012 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院
7013 熊本市立熊本市市民病院
7014 宮崎県立宮崎病院

第 14 回 認可（11 施設）

認定番号 施設名

- 2015 (財) 温知会 会津中央病院
3069 茨城県立中央病院・地域がんセンター
3070 医療法人社団 千葉県勤労者医療協会 船橋二和病院
3071 東京都立大塚病院
3072 東京警察病院
3073 医療法人社団 済生会 立川相互病院
4034 藤枝市立総合病院
4035 松波総合病院
4036 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院
5033 NTT 西日本大阪病院
6021 広島赤十字・原爆病院

第 16 回 認可（4 施設）

認定番号 施設名

- 1010 JA 北海道厚生連 旭川厚生病院
2017 盛岡赤十字病院
3076 独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院

3077 独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院

第18回 認可 (12 施設)

認定番号 施設名

3079 総合病院土浦協同病院
3080 さいたま市立病院
3081 国立がんセンター東病院
4016 総合病院名古屋第二赤十字病院
4042 黒部市民病院
4043 豊橋市民病院
4045 小牧市民病院
5040 大阪市立総合医療センター
5041 独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
6023 島根県立中央病院
6024 高松赤十字病院
7019 佐世保市立総合病院

第20回 認可 (4 施設)

認定番号 施設名

3086 財団法人東京都保健医療公社荏原病院
4047 聖隷三方原病院
5043 市立岸和田市民病院
5044 独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

第22回 認可 (31 施設)

認定番号 施設名

1011 旭川赤十字病院
1012 KKR 札幌医療センター
2022 独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院
2023 仙台市立病院
2024 東北厚生年金病院
2025 石巻赤十字病院
2026 秋田赤十字病院
3048 さいたま赤十字病院
3051 横須賀市立市民病院
3092 茨城県済生会水戸済生会総合病院
3093 独立行政法人労働者健康福祉機構鹿島労災病院
3096 (財) 東京都保健医療公社大久保病院
3097 医療法人財団河北総合病院
4003 愛知県がんセンター中央病院
4005 富山市立富山市民病院
4019 岐阜県立多治見病院
4051 諏訪赤十字病院
4054 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
4055 独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
5024 市立豊中病院
5047 社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
5048 東大阪市立総合病院

5049 公立豊岡病院

5051 日本赤十字社和歌山医療センター

6008 香川県立中央病院

6025 松江赤十字病院

6026 独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院

6027 徳島赤十字病院

7008 鹿児島市立病院

7021 福岡赤十字病院

7022 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター

第24回 認可 (12 施設)

認定番号 施設名

1006 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
2029 米沢市立病院
3104 独立行政法人国立病院機構栃木病院
3106 桐生厚生総合病院
4059 独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター松本病院
4060 済生会新潟第二病院
5007 兵庫県立尼崎病院
5063 社会保険神戸中央病院
5064 神戸市立西市民病院
5065 滋賀県立成人病センター
7025 公立八女総合病院
7026 医療法人白十字会佐世保中央病院

第26回 認可 (22 施設)

認定番号 施設名

1023 北海道立子ども総合医療・療育センター
1024 医療法人湊仁会手稲湊仁会病院
3047 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
3094 医療法人社団東光会戸田中央総合病院
3111 利根保健生活協同組合利根中央病院
3112 独立行政法人国立病院機構水戸医療センター
3113 埼玉県済生会川口総合病院
3114 北里研究所病院
3116 日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院
3117 川崎市立井田病院
3118 財団法人神奈川県警友会けいゆう病院
4066 愛知県厚生農業協同組合連合会江南厚生病院
4067 新潟県立新発田病院
4068 高岡市民病院
5068 彦根市立病院
5069 医療法人徳洲会宇治徳洲会病院
5070 医療法人社団洛和会洛和会音羽病院
5072 独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
5073 独立行政法人労働者健康福祉機構和歌山労災病院

6034 高松市民病院
7032 千鳥橋病院
7033 医療法人社団新日鐵八幡記念病院

第28回 認可 (25 施設)

認定番号 施設名
1009 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院
2036 みやぎ県南中核病院
3123 公立藤岡総合病院
3124 深谷赤十字病院
3125 埼玉社会保険病院
3126 埼玉県立小児医療センター
3127 財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院
3128 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
3130 (財) 東京都保健医療公社多摩南部地域病院
3131 石心会川崎幸病院
4020 独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院
4072 富山赤十字病院
4073 富山県済生会高岡病院
4074 JA 長野厚生連小諸厚生総合病院
4075 静岡市立清水病院
4076 愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院
4077 半田市立半田病院
4078 稲沢市民病院
5050 医療法人社団新日鐵広畑病院
5079 医療法人生長会ベルランド総合病院
5080 国家公務員共済組合連合会大手前病院
6037 徳島県立中央病院
6039 福山市医師会診断病理学センター
6040 独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
7037 社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会八幡総合病院

第30回 認可 (12 施設)

認定番号 施設名
1027 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
4081 静岡赤十字病院
4082 名古屋記念病院
4083 名古屋市立東市民病院
5082 独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院
5083 姫路赤十字病院
6044 総合病院岡山市立市民病院
6045 三豊総合病院
6046 財団法人永頼会松山市市民病院
6047 高知赤十字病院
6048 高知医療センター
7040 独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院

平成 21 年度病理専門医研修施設 (登録施設) 更新機関
(第 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30 94 施設)

期間 2 年間 平成 21 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

第 2 回 認可 (3 施設)

登録番号 施設名
3028 総合病院厚生中央病院
3029 川崎医療生活協同組合川崎協同病院
4024 浜松赤十字病院

第 4 回 認可 (3 施設)

登録番号 施設名
5024 公立南丹病院
6011 総合病院水島協同病院
7018 社会保険宮崎江南病院

第 6 回 認可 (7 施設)

登録番号 施設名
2011 地方独立行政法人秋田県立病院機構秋田県立脳血管研究センター
3036 医療法人社団順江会江東病院
4002 市立島田市民病院
4028 市立岡谷病院
4030 高山赤十字病院
7021 公立学校共済組合九州中央病院
7025 総合病院鹿児島生協病院

第 8 回 認可 (3 施設)

登録番号 施設名
3055 横浜市立みなと赤十字病院
5034 西宮市立中央病院
6016 下関市立中央病院

第 10 回 認可 (4 施設)

登録番号 施設名
3058 神奈川県厚生農業協同組合連合会伊勢原協同病院
3060 神奈川県立循環器呼吸器病センター
5036 市立吹田市民病院
7030 鹿児島市医師会病院

第 12 回 認可 (1 施設)

登録番号 施設名
4047 医療法人 (社団) 中信勤労者医療協会松本協立病院

第 14 回 認可 (4 施設)

登録番号 施設名
2016 津軽保健生活協同組合健生病院
5045 西脇市立西脇病院
6018 岡山医療生活協同組合総合病院岡山協立病院

7033 国家公務員共済組合連合会新小倉病院

第16回 認可 (3施設)

登録番号 施設名

7037 福岡市立こども病院・感染症センター
7038 独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
7039 医療法人同心会古賀総合病院

第18回 認可 (5施設)

登録番号 施設名

3078 東芝病院
4064 長野県立こども病院
4065 土岐市立総合病院
5049 医療法人川崎病院 6025 独立行政法人国立病院機構
福山医療センター

第20回 認可 (1施設)

登録番号 施設名

4073 済生会松阪総合病院

第22回 認可 (11施設)

登録番号 施設名

1018 苫小牧市立総合病院
2010 岩手県立宮古病院
4076 独立行政法人国立病院機構長野病院
4077 医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
5060 公立甲賀病院
5065 医療法人きっこう会総合病院多根病院
6002 国家公務員共済組合連合会広島記念病院
6037 独立行政法人国立病院機構善通寺病院
6038 社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院
6039 済生会西条病院
6040 愛媛県立今治病院

第24回 認可 (6施設)

登録番号 施設名

1021 江別市立病院
1022 滝川市立病院
3091 神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院
4083 磐田市立総合病院
5068 社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院
6041 独立行政法人国立病院機構高知病院

第26回 認可 (13施設)

登録番号 施設名

1023 独立行政法人労働者健康福祉機構北海道中央労災病
院
2025 市立秋田総合病院

2027 公立気仙沼総合病院

3096 社会保険群馬中央総合病院

3097 群馬県済生会前橋病院

3099 社会保険山梨病院

4087 社会福祉法人聖霊会聖霊病院

4088 医療法人偕行会名古屋共立病院

4090 国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院

5075 医療法人宝生会 PL 病院

5077 神戸百年記念病院

6044 公立学校共済組合中国中央病院

6045 財団法人津山慈風会津山中央病院

第28回 認可 (12施設)

登録番号 施設名

1025 名寄市立総合病院
1026 総合病院北見赤十字病院
1027 JA 北海道厚生連帯広厚生病院
2028 福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
3100 独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
3101 社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院
4094 伊那中央病院
4095 独立行政法人労働者健康福祉機構旭労災病院
5080 医療法人景岳会南大阪病院
6049 財団法人倉敷成人病センター
7047 宮崎県立日南病院
7054 大分赤十字病院

第30回 認可 (18施設)

登録番号 施設名

1031 総合病院伊達赤十字病院
1032 総合病院釧路赤十字病院
1033 特定医療法人北楡会 札幌北楡病院
1034 医療法人社団北斗 北斗病院
3112 千葉県済生会習志野病院
3113 佐野厚生総合病院
4089 医療法人社団志聖会犬山中央病院
4098 安曇野赤十字病院
4099 国立長寿医療センター
4100 独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター
4111 福祉医療センター名古屋市厚生院附属病院
5083 阪南中央病院
5084 市立小野市民病院
5085 三木市立三木市民病院
6053 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
6054 独立行政法人労働者健康福祉機構山口労災病院
7059 独立行政法人国立病院機構大分医療センター
7060 社団法人鹿児島共済会南風病院

◇平成 20 年度事業報告について：第 98 回（平成 21 年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成 20 年度事業報告（平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで）は、以下のとおりである。

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 「第 97 回日本病理学会総会」（於金沢・中沼安二会長）を開催
- (2) 「第 54 回日本病理学会秋期特別総会」（於松山・植田規史会長）を開催

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第 5 回日本病理学会カンファレンス（2008 湘南 8 月 1 日・2 日）を実施
- (2) 細胞診講習会（於東京都 3 月 22 日・23 日）を実施
- (3) 病理診断講習会（於金沢市 5 月 15 日～17 日）を実施
- (4) 病理技術講習会（於松山市 11 月 19 日）を実施
- (5) 第 2 回診断病理サマーフェスト（於京都市 8 月 23 日・24 日）を実施
- (6) 各支部における「学術・研究集会」等を実施

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行（第 97 巻第 1～2 号）を発行
2. 「Pathology International」の発行（Vol.58 4～12, Vol.59 1～3）を発行
3. 「診断病理」の発行（第 25 巻第 2～4 号, 第 26 巻第 1 号）を発行
4. 「日本病理学会会報」(第 243～254 号) を発行
5. 「病理専門医部会報」(2008 年 第 2～4 号, 2009 年 第 1 号) を発行

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」第 49 輯（平成 18 年症例）を発行
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於東京都）の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 「病理専門医研修手帳」の実施
4. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援（国内）を多数実施
2. 腫瘍取り扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流を実施
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流を実施

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学賞（宿題報告）を 3 名に授与
2. 日本病理学会学術奨励賞を 5 名に授与

3. 日本病理学会学術研究賞（A 演説）を 8 名に授与

4. 病理学卒前教育の充実

5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実

6. インターネットホームページの充実

7. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施

8. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会を開催

◇平成 20 年度収支決算報告について：第 98 回（平成 21 年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成 20 年度収支決算報告は、以下のとおりである。

1) 収支計算書

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	17,000	49,694	32,694
受取利息収入	17,000	49,694	32,694
2. 会費収入	72,680,000	69,363,000	△ 3,317,000
正会員・学術評議員会費	30,000,000	27,030,000	△ 2,970,000
同終身会費	3,000,000	2,600,000	△ 400,000
同一一般会員会費	27,000,000	27,466,000	466,000
学生会員会費	30,000	0	△ 30,000
賛助会員会費	250,000	150,000	△ 100,000
機関会員会費	400,000	405,000	5,000
病理専門医部会員会費	12,000,000	11,712,000	△ 288,000
3. 事業収入	120,050,000	143,736,738	23,686,738
学術集会収入	80,000,000	100,509,196	20,509,196
論文掲載料収入	850,000	986,414	136,414
広告料収入	700,000	726,600	26,600
刊行物発行収入	15,000,000	14,192,000	△ 808,000
専門医制度収入	15,000,000	16,472,000	1,472,000
病理専門医部会収入	4,000,000	3,609,053	△ 390,947
講習会等収入	2,500,000	4,752,000	2,252,000
賠償責任保険事務費収入	2,000,000	2,489,475	489,475
4. 補助金収入	5,000,000	0	△ 5,000,000
5. 繰入金収入	2,600,000	2,820,000	220,000
学術医療基金繰入金収入	2,600,000	2,820,000	220,000
6. 雑収入	920,000	11,162,576	10,242,576
受取利息収入	120,000	361,241	241,241
雑収入	800,000	10,801,335	10,001,335
当期収入合計 (A)	201,267,000	227,132,008	25,865,008
前期繰越収支差額	43,564,000	54,750,056	11,186,056
収入合計 (B)	244,831,000	281,882,064	37,051,064

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異
II. 支出の部			
1. 事業支出	162,000,000	184,404,767	22,404,767
学術集会経費	84,500,000	99,161,098	14,661,098
学会誌発行経費	32,000,000	30,640,588	△ 1,359,412
会報発行経費	2,500,000	3,090,675	590,675
剖検輯報刊行経費	11,000,000	11,008,914	8,914
専門医制度運営経費	9,000,000	9,370,081	370,081
病理専門医部会経費	8,000,000	8,838,396	838,396
支部運営経費	6,000,000	5,850,000	△ 150,000
学術奨励等経費	4,500,000	2,880,391	△ 1,619,609
講習会等経費	2,000,000	4,578,372	2,578,372
各種委員会経費	2,500,000	3,172,120	672,120
事業人件費	0	5,814,132	5,814,132
2. 管理費	32,680,000	30,222,187	△ 2,457,813
人件費	15,000,000	8,328,807	△ 6,671,193
福利厚生費	1,800,000	2,078,514	278,514
交通費	350,000	275,000	△ 75,000
通信運搬費	2,500,000	2,722,620	222,620
会議費	1,000,000	1,261,629	261,629
印刷費	2,000,000	1,623,896	△ 376,104
備品費	200,000	0	△ 200,000
消耗品費	400,000	316,062	△ 83,938
光熱費	230,000	236,371	6,371
賃借料	2,600,000	2,523,728	△ 76,272
諸会費	800,000	900,000	100,000
補助金	200,000	0	△ 200,000
修繕費	100,000	0	△ 100,000
嘱託料	2,000,000	3,351,000	1,351,000
租税公課 (消費税等)	3,000,000	1,045,000	△ 1,955,000
(法人税等)	0	5,000,000	5,000,000
雑費	500,000	559,560	59,560
3. その他	4,300,000	4,390,490	90,490
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療基金引当預金 繰入支出他	2,700,000	2,790,490	90,490
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000
当期支出合計 (C)	199,980,000	219,017,444	19,037,444
当期収支差額 (A-C)	1,287,000	8,114,564	6,827,564
次期繰越収支差額 (B-C)	44,851,000	62,864,620	18,013,620

2) 正味財産増減計算書

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	金 額
I. 増加の部	
1. 資産増加額	
当期収支差額	8,114,564
退職給与引当預金積立金額	1,600,000

学術医療基金引当預金積立額	2,756,459		
国際交流基金引当預金積立額	34,031	12,505,054	
2. 負債減少額			
増加額合計			12,505,054
II. 減少の部			
1. 資産減少額			0
学術医療基金引当預金取崩	2,820,000	2,820,000	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額	1,600,000	1,600,000	
減少額合計			4,420,000
当期正味財産増加額			8,085,054
前期繰越正味財産額			224,453,007
期末正味財産合計額			232,538,061

3) 貸借対照表

平成 21 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	127,075,658		
前 払 金	420,861		
立 替 金	4,445,000		
未 収 金	259,167		
流動資産合計		132,200,686	
2. 固定資産			
基本財産	30,000,000		
その他の固定資産			
特別財産	138,658,484		
保 証 金	930,000		
退職給与引当預金	15,900,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	155,573,441		
固定資産合計		185,573,441	
資産合計			317,774,127
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	50,747,000		
未払金	18,434,536		
預り金	154,530		
流動負債合計		69,336,066	
2. 固定負債			
退職給与引当金	15,900,000		
固定負債合計		15,900,000	
負債合計			85,236,066
III. 正味財産の部			
正味財産			232,538,061
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(8,085,054)
負債及び正味財産合計			317,774,127

4) 財産目録
平成 21 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現金預金		
現 金 現金手許有高	269,663	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	123,615,320	
普通預金		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	128,603	
定期預金 みずほ銀行本郷支店	98,447	
郵便振替貯金	2,963,625	
現金預金合計	127,075,658	
(2) 前払金		
家 賃	195,300	
会費自動振替手数料	225,561	
前払金合計	420,861	
(3) 立替金		
P.I. カラー頁印刷費	4,445,000	
(4) 未収金		
学会誌発行収入等	259,167	
流動資産合計		132,200,686
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
普通預金		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	30,000,000	
(2) その他の固定資産		
① 特別財産		
学術医療基金引当預金	118,532,682	
(普通・三菱東京 UFJ 銀行 春日支店他)		
国際交流基金引当預金	20,125,802	
(普通・りそな銀行本郷支店)		
特別財産合計	138,658,484	
② 保 証 金	930,000	
③ 退職給与引当預金	15,900,000	
④ 什器備品	84,957	
その他の固定資産合計	155,573,441	
固定資産合計		185,573,441
資産合計		317,774,127

(単位 円)

科 目	金 額	
II. 負債の部		
1. 流動負債		
(1) 前受金		
平成 21 年度会費・部会費等	50,747,000	
(2) 未払金		
英文誌印刷費等	5,860,000	
日病会誌印刷費	5,404,681	
会報印刷費	388,500	

細胞診講習会経費	1,381,355		
未払消費税	400,000		
未払法人税等	5,000,000		
未払金合計	18,434,536		
(3) 預り金			
源泉所得税等	154,530		
流動負債合計		69,336,066	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	15,900,000		
固定負債合計		15,900,000	
負債合計			85,236,066
正味財産			232,538,061

◆会員数 (平成 21 年度 7 月 31 日現在) :

正会員	3,752 名
(学術評議員	1,528 名)
(一般会員	2,224 名)
名誉会員	304 名
賛助会員	3 名
機関会員	85 名
計	4,144 名

◆役員一覧 (平成 21 年度) :

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。

理事および監事 (任期: 平成 22 年 3 月 31 日まで)

理事長	長村 義之
副理事長・常任理事	岡田 保典
副理事長・理事	深山 正久
常任理事	真鍋 俊明
常任理事	黒田 誠
理 事	青笹 克之
理 事	井内 康輝
理 事	覚道 健一
理 事	松原 修
理 事	本山 悌一
理 事	向井 清
理 事	根本 則道
理 事	坂本 穆彦
理 事	佐藤 昇志
理 事	白石 泰三
理 事	居石 克夫
理 事	寺田 信行
理 事	上田真喜子
理 事	山口 朗
監 事	石原 得博
監 事	太田 秀一

◆各種委員会委員名簿（平成年度 21 年 4 月現在）：

1. 企画委員会
深山正久(委員長), 岡田保典, 真鍋俊明, 黒田 誠, 坂本
穆彦, 覚道健一, 松原 修, 本山悌一, 上田真喜子, 大橋
健一
- 1-2. サマーフェスト委員会
真鍋俊明(委員長), 福嶋敬宜, 久岡正典, 平戸純子, 清川
貴子, 田丸淳一, 柴原純二
- 1-3. 市民公開講座検討委員会
岡田保典(委員長), 深山正久, 羽場礼次, 樋野興夫, 中山
淳, 落合淳志, 坂元亨字, 安井 弥
2. 広報委員会
坂本穆彦(委員長), 岡田保典, 真鍋俊明, 黒田 誠, 深山
正久, 向井 清, 居石克夫, 上田真喜子, 山口 朗, 藤井
丈士, 望月 眞, 谷山清己
3. 財務委員会
真鍋俊明(委員長), 岡田保典, 黒田 誠, 深山正久, 坂本
穆彦, 松原 修, 向井 清
4. 学術委員会
岡田保典(委員長), 真鍋俊明, 黒田 誠, 深山正久, 坂本
穆彦, 青笹克之, 佐藤昇志, 居石克夫, 山口 朗, 樋野興
夫, 能勢真人, 落合淳志, 坂元亨字, 高橋雅英, 山本哲郎,
当該年春期総会会長(深山正久), 秋期特別総会会長(橋本
洋)
- 4-2. 学術奨励賞選考委員会
青笹克之(委員長), 深山正久, 井内康輝, 松原 修, 坂本
穆彦, 向井 清, 岡田保典(学術委員長) 覚道健一(教育
委員長), 黒田 誠(病理専門医制度運営委員長)
5. 研究推進委員会
青笹克之(委員長), 深山正久, 岡田保典, 松川昭博, 笹野
公伸, 高桑徹也, 恒吉正澄, 中村卓郎, 中山 淳
6. 編集委員会
向井 清(委員長), 深山正久, 坂本穆彦, 真鍋俊明, 岡田
保典, 青笹克之, 覚道健一, 根本則道, 高橋雅英, 向井万
起男
- 6-2. Pathol Int 常任刊行委員会
高橋雅英(委員長), 藤本純一郎, 福嶋敬宜, 小野栄夫, 廣
瀬隆則, 石田 剛, 城 謙輔, 鬼島 宏, 森永正二郎, 本
山悌一, 向井 清, 中谷行雄, 中里洋一, 野口雅之, 落合
淳志, 小田義直, 岡田保典, 大島孝一, 坂元亨字, 佐野壽
昭, 佐多徹太郎, 清水道生, 滝澤登一郎, 堤 寛, 都築
豊徳, 上田真喜子, 梅村しのぶ, 横山繁生, 吉野 正
- 6-3. 剖検情報委員会
根本則道(委員長), 藤原 恵, 市原 周, 楠美嘉晃
7. 病理専門医制度運営委員会
黒田 誠(委員長), 根本則道, 覚道健一, 白石泰三, 泉 美
貴, 森永正二郎, 森谷卓也, 村田哲也, 仁木利郎, 野鳥孝
之, 清水道生, 田村浩一, 向井万起男
- 7-2. 病理専門医試験委員会
仁木利郎(委員長), 村田哲也, 小西 登, 野口雅之, 大橋
健一, 梅村しのぶ, 中谷行雄, 大林千穂
- 7-3. 病理専門医資格審査委員会
森永正二郎(委員長), 泉 美貴, 野口雅之, 伊藤智雄, 菅
井 有, 津田 均
- 7-4. 病理専門医施設審査委員会
村田哲也(委員長), 野鳥孝之, 伊藤浩史, 中村直哉, 小田
義直, 谷田部恭
- 7-5. 「診断病理」編集委員会
向井万起男(委員長), 笹島ゆう子(副), 布村眞季(副),
安田政実(副), 長谷川匡, 鬼島 宏, 内藤善哉, 伊藤浩史,
横崎 宏, 松川昭博 横山繁生(以上支部編集委員)
- 7-6. 病理専門医部会報編集委員会
清水道生(委員長), 堤 寛(副), 望月 眞(副), 佐藤
昌明, 鬼島 宏, 上田善彦, 福留寿生, 大山秀樹, 藤原 恵,
小田義直
- 7-7. 病理診断講習会委員会
清水道生(委員長), 森谷卓也, 福嶋敬宜, 鷹橋浩幸, 笹島
ゆう子, 小田義直
- 7-8. 病理診断体制専門委員会
水口國雄(委員長), 羽山忠良, 岸川正大, 小松明男, 大橋
健一, 嶋田裕之, 田村浩一, 安田政実, 黒田 誠, 根本則
道, 谷山清己, 佐々木毅
8. 医療業務委員会
根本則道(委員長), 真鍋俊明, 本山悌一, 白石泰三, 松野
吉宏, 清水道生, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一
- 8-2. コンサルテーション委員会
森永正二郎(委員長), 森谷卓也, 清川貴子, 長嶋洋治, 都
築豊徳, 吉野 正
- 8-3. 社会保険委員会
稲山嘉明(委員長), 逸見明博, 熊坂利夫, 森 正也, 大倉
康男, 佐々木毅, 横山宗伯, 嶋田裕之, 島村和男(顧問: 原
正道, 水口國雄)
- 8-4. 精度管理委員会
羽場礼次(委員長), 鬼島 宏, 長嶋洋治, 大林千穂, 清水
禎彦, 和田 了, 柳井広之, 木佐貫篤
- 8-5. 剖検・病理技術委員会
谷山清己(委員長), 明石 巧, 筑後孝章, 長谷川剛, 万代
光一, 仲里 巖, 清水秀樹, 山城勝重, 柳井広之
- 8-6. 癌取扱い規約委員会
坂本穆彦(委員長), 伊藤以知郎, 森永正二郎
9. 口腔病理専門医制度運営委員会
山口 朗(委員長), 覚道健一, 仙波伊知郎, 高田 隆, 田
中陽一, 出雲俊之, 前田初彦, 豊澤 悟
- 9-2. 口腔病理専門医試験委員会
出雲俊之(委員長), 田中陽一, 豊澤 悟, 仙波伊知郎, 長
塚 仁

9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会

高田 隆 (委員長), 仙波伊知郎

10. 教育委員会

覚道健一(委員長), 井内康輝, 寺田信行, 羽場礼次, 伊藤浩史, 下 正宗, 若狭朋子, 長嶋洋治

11. 国際交流委員会

松原 修 (委員長), 佐藤昇志, 久岡正典, 清川貴子, 笹野公伸, 都築豊徳, 荒川 敦

12. 支部委員会

居石克夫 (委員長), 佐藤昇志, 本山悌一, 根本則道, 白石泰三, 寺田信行, 井内康輝

13. 倫理委員会

井藤久雄(委員長), 武村民子, 堤 寛, 伊藤雅文, 本山悌一, 長嶋洋治, 増井 徹 (外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)

14. リスクマネジメント委員会

井内康輝(委員長), 野々村昭孝, 長村義之, 坂本穆彦, 児玉安司 (外部委員)

15. 医療関連死関係専門委員会

黒田 誠(委員長), 深山正久, 真鍋俊明, 森 茂郎, 根本則道, 野口雅之, 岡崎悦夫, 加治一毅

16. プログラム推進委員会

青笹克之(委員長), 深山正久, 黒田 誠, 岡田保典, 村田

哲也, 清水道生, 梅村しのぶ

17. 人材育成委員会

上田真喜子 (委員長) 深山正久, 向井 清, 坂本穆彦, 羽賀博典, 渡邊みか, 梅村しのぶ, 大井章史, 武島幸男, 小田義直, 大橋健一

17-2. 若手医師確保に関する委員会

大橋健一(委員長), 羽場礼次, 茅野秀一, 鬼島 宏, 北川昌伸, 長嶋洋治, 笹島ゆう子, 鈴木 貴, 田村浩一, 谷山清己, 伊倉義弘, 森井英一, 豊國伸哉

◇ 社団法人日本病理学会事務局: 大藪いづみ, 菊川敦子

• 住所: 〒 113-0033 文京区本郷 2-40-9

ニュー赤門ビル 4 階

• TEL: 03-5684-6886

• FAX: 03-5684-6936

• E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp (事務局)

• E-mail: pin@blackwellpublishing.com (Pathology Int. 編集室)

• ホームページ: <http://jsp.umin.ac.jp/>

• 郵便振替口座: 口座番号 00130-4-32817

加入者名 社団法人日本病理学会